

令和元年度第1回千歳市障がい者地域自立支援協議会定例会議兼全体会議開催結果

<日 時> 令和元年7月25日(木) 9時30分～12時00分

<場 所> 総合福祉センター4階 402号室

<出席者> 委員並びに関係機関、及び千歳市・事務局 計52名

【委員】18名(別紙名簿のとおり)

荒会長、青木副会長、古田委員、横山(史)委員、青山委員、柳田委員、益山委員、
伊東委員、佐藤(義)委員、菊池委員、岡田委員、大村委員、佐藤(貞)委員、川北委員、
宮下委員、五東委員、中川委員、下川部委員、清水委員、山崎委員、森本委員、田口委員、
奥貫委員、富永委員

欠席(5名)

森委員、斎藤委員

(下線は一部改選に伴う後任委員)

【関係機関】16名(別紙のとおり)

【千歳市・事務局】9名

三崎保健福祉部長、佐藤保健福祉部次長、新谷障がい者支援課長(事務局長)、
甲木障がい福祉係長、佐藤自立支援係長(事務局次長)

千歳市障がい者総合支援センター 横山センター長(事務局次長)、中村

<配布資料(別添のとおり)>

議題(1)平成30年度千歳市障がい者地域自立支援協議会活動報告

議題(2)平成30年度千歳市障がい者総合支援センター運営事業報告

議題(3)平成30年度千歳市地域生活支援センター相談支援強化事業報告

議題(4)平成30年度千歳市障がい者就労支援事業報告

議題(5)千歳市からの報告

令和元年度千歳市の障がい福祉施策等について

令和元年度障害者就労施設等からの物品等の調達方針

平成30年度千歳市障害支援区分認定審査会審査結果

千歳市障がい者計画・第5期千歳市障がい福祉計画・第1期千歳市障がい児福祉計画

議題(6)令和元年度千歳市障がい者地域自立支援協議会運営方針

<次 第>

1 開会

2 依頼状交付

一部委員の改選に伴う後任委員への依頼状を交付した。

3 あいさつ

千歳市保健福祉部 三崎部長あいさつ

(要旨)

お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。

本日は、第1回目の会議ということで全体会議も兼ねて開催しており、協議会委員に加え、関係団体、関係機関の皆様にもご案内申し上げ、このように多くの方のご参加をいただき、重ねてお礼申し上げます。

先程、依頼状をお渡ししたところであるが、新たに7名の方にご就任いただいた。新任委員皆様には、来年10月28日までの任期となるが、協議会委員として活動をよろしく願います。

先日の参議院選挙では、ALS患者の方が一人、重度身体障がいの方が当選されており、今後、国会が受け入れ体制をどのように整えていくかなど運営面に關心を持っており、同時に議員として障がいのある方の視点でどのようなことを発信されていくのか注目していきたいと考えている。

さて、今年度は、市長選の年であったが、市としては10万人都市を目指して、まちのさらなる高みを目指し、様々な施策を講じることとしている。施策展開には多様な側面があるが、昨年9月の胆振東部地震では多くの教訓が得られたところであり、震災への対応の在り方については皆さんと議論していく機会を設けられればと思っている。

いずれにしても、市としては、昨年策定した「千歳市障がい者計画、第5期千歳市障がい福祉計画、第1期千歳市障がい児福祉計画」に基づき、地域での共生や安心をキーワードに、障がいのある人への適切な障害福祉サービスの提供に努めてまいり所存である。また、手話言語条例についても施行から一年が経過したが、今後も手話の普及に向けた取組を進めていく考えであり、皆様のご理解とご協力をお願いしたい。

最後になるが、委員各位には、引き続き、障がい福祉の向上にお力添えをいただきたくお願い申し上げます、開会のあいさつとさせていただきます。

4 部会長選出(はたらく部会)

はたらく部会の佐藤(靖)部会長退任に伴う新部会長の選出。

佐藤(靖)委員の後任委員として就任した下川部委員を荒会長が指名した。委員からの異議はなく、はたらく部会の部会長を下川部委員とすることで決定した。

5 議題

(1) 平成 30 年度千歳市障がい者地域自立支援協議会活動報告

平成 30 年度における活動状況について、各部長から報告があった。

相談支援部会(奥貫部会長)

相談支援部会は相談支援事業所、医療機関の相談員、地域包括支援センターなど日常的に障がいのある方などの相談等を受けている方に集まっていただき、概ね月一回開催している。当部会では、主に地域の現状に関する情報交換、地域課題の検討、障がい福祉勉強会の企画などを行っている。

平成 30 年度においては、障がいのある方の経済基盤として重要な障害基礎年金の申請を円滑に進めるための手順や準備の検討、申請手続きの中での困りごとに関する情報交換を行った。このほか、支援者との関わりが途切れがちになる方への見守りの在り方や、胆振東部地震発災時の対応や課題についての意見交換を行った。

また、障がい福祉勉強会については、「千歳市の現状と自立支援協議会について」、「就労支援について」、「住まいと必要な支援について」、「相談支援の実際について」の 4 つのテーマで開催した。

こども部会(田口部会長)

こども部会は 2 か月に一回、偶数月に開催している。

放課後等児童デイなどの児童福祉に関わる事業所等を構成メンバーとして、地域課題の集約、検討の場としている。

また、市内在住の障がいのあるお子さんを対象に長期休暇中におけるイベントとしてレッツスマイルを実施したほか、保護者対象の情報交換会、支援者対象の勉強会の企画・開催を行った。

夏のレッツスマイルでは江別市のアースドリーム角山農場の見学を行い、冬はボウリングコースと千歳さけますの森さけます情報館見学コースの 2 コースを用意し、午後からは福祉センターを会場にマジックショーを楽しんでもらったところである。近隣の高校生にもボランティアを依頼し参加者と過ごしてもらうことで、将来の障がい福祉を担う人材確保のきっかけの場としても位置付けている。

支援者向けの勉強会として、南幌養護学校並びに千歳高等支援学校の見学を行った。このほか、初の試みとして、はたらく部会と合同で児童が利用可能な事業所の個別相談会を開催した。

はたらく部会(下川部会長)

市内の就労事業所、学校、デイケア、医療関係者など 20 名から 30 名の方に参加いただき、概ね奇数月に開催している。視察研修及び合同説明会の開催準備に関する協議に加え、グループワークを行った。

視察研修は、札幌みなみの杜高等支援学校及び北海道リハビリの見学を行った。

また、合同説明会については、12月にこども部会と共同で開催しており、市内事業所ごとにブースを設け、個別に事業所の概要等の説明を行った。

地域生活部会(岡田部会長)

地域生活部会は在宅生活に関する諸課題を話し合うため立ち上げて2年目を迎えた。

目的としては、地域課題の掘り起こし、在宅の問題等の把握であるが、今のところは具体的な取組に至っていない。引き続き、在宅生活における潜在的な課題を聞き出していく方法を模索していきたい。

進路連絡会議(横山事務局次長)

進路連絡会議は協議会の協力組織として活動している。夏・冬2回開催しており、学校関係者や就労支援事業所等が参集し、主に高等支援学校の卒業生の進路、在校生の進路希望等について確認を行っている。

夏については、翌年に卒業を迎える生徒の進路の情報共有、卒業後に就労継続支援B型利用者の就労アセスメントの調整等を行った。冬については、最終的な進路の確認を行ったところである。各回、会議後半には情報交換会を設けており、住まいの確保の必要性などについて意見交換を行った。

差別解消・虐待防止専門部会(佐藤自立支援係長)

例年、高齢者支援課と共同で「高齢者・障がい者虐待防止ネットワーク会議」として2回開催しているが、昨年度は震災の関係で1回の開催にとどまったが、市から高齢者分野と障がい者分野における虐待の状況についての報告を受けたのち、北海道における障がい者虐待の動向について情報共有を図ったところである。

(2)平成30年度千歳市障がい者総合支援センター運営事業報告

千歳市障がい者総合支援センター(横山センター長)から資料に基づき報告があった。

(3)平成30年度千歳地域生活支援センター相談支援強化事業報告

千歳地域生活支援センター(奥貫センター長)から資料に基づき報告があった。

(4)平成30年度千歳市障がい者就労支援事業報告

就労推進室やませみ(下川部就労推進員)から資料に基づき報告があった。

【質疑等(議題(2)~(3))】

<A委員>

まず、「議題(3)平成30年度千歳地域生活支援センター相談支援強化事業報告」について伺いたい。制度利用相談については、生活保護に関する相談が35%と多くなっており、

年金についての相談も 16%と高くなっている。これらの相談の内訳として、障がい者本人からの相談が多いのか、家族からの相談が多いのか教えていただきたい。

それともう一点、「議題(4)平成30年度千歳市障がい者就労支援事業報告」において、定着支援の成果が記載されているが、定着支援対象者のうち、正規雇用されている方は何人ぐらいいるのか伺いたい。

<奥貫センター長>

本人からの相談が多い。なお、障がい当事者本人と家族と一緒に相談に訪れるケースもあるが、これは「本人からの相談」として集計している。なお、家族からは電話での相談が多くなっている。

<下川部就労推進員>

具体的な数字は持ち合わせていないが、非正規雇用の方が多くを占めている。障害者雇用促進法を受けて障がい者雇用枠という形で雇用を促進している企業が増えてきているが、非正規雇用が多い傾向にある。正確な資料は後日お渡しすることで了承いただきたい。

<B委員>

「議題(3)平成30年度千歳地域生活支援センター相談支援強化事業報告」について、精神障がい者の地域移行・地域定着の促進に向けた取組を行っているとの説明があったが、実際の対応件数と地域移行に至った件数があればお示しいただきたい。それと、「議題(4)平成30年度千歳市障がい者就労支援事業報告」に関して、職場定着支援を行っているとのことであるが、定着支援を行っても離職してしまうケースがあると思う。その場合どのような理由によるものなのか教えていただきたい。

<奥貫センター長>

地域移行支援については、昨年の実績は一件のみであり、市外の方であった。病院からの退院に係る支援を行ったものである。当該支援については年に1~2人であり、半年から一年の関わりの中で退院に関わる支援を行うことが多い。このほか、北海道の委託事業で長期入院の方が退院しやすい地域になるよう、病院職員を対象に障がい福祉サービスなどに関する研修を行っている。

<下川部就労推進員>

一例をあげさせていただくと、就労後一年で退職した方がいるが、当初は職場の方が障がい者雇用という趣旨を理解し配慮をいただいていたが、半年経過したくらいから周囲の方がその配慮に疲弊してきて働く環境が変わってきたことを理由に退職に至ったというケースがある。就労支援は、就職して終わりではなく、その仕事をいかに長く続けていただくかということが重要であり、引き続き職場定着支援に力を入れ、迅速な相談対応が行え

るよう努めていきたい。

(5)千歳市からの報告

令和元年度の千歳市の障がい福祉施策等について

令和元年度障害福祉関係予算について資料に基づき説明を行った。

令和元年度の新規事業等としては、日常生活給付事業の品目に埋め込み型人工喉頭用人工鼻を追加した。また、成年後見支援センターを新たに設置するほか、現在、総合福祉センター1階に視覚障がい者用誘導ソフトマットを敷設しているが、今年度は同施設の4階にも同マットを敷設することを予定している。

令和元年度千歳市障害者就労施設等からの物品等の調達方針

資料に基づき報告した。平成30年度においては、調達目標額100万円を達成した。令和元年度の調達目標額は引き続き100万円とし、障害者優先調達推進法に基づく取組を進めていく旨を報告した。

平成30年度千歳市障害支援区分認定審査会審査結果

資料に基づき報告を行った。

【質疑等】

<C 委員>

総合福祉センター4階にソフトマットを敷設していただくことに感謝申し上げます。

一点確認させていただきたいのだが、1階に敷設しているのは市か敷設したと考えてよいのか。

<甲木障がい福祉係長>

1階については、サンプルで敷設されたもので市費で敷設したものではない。このたび4階に敷設するのは市で予算措置したものである。

<D 委員>

障害支援区分認定審査会審査結果について、有効期間別認定件数が12か月、24か月、36か月となっているが、どのような基準で期間が決まるのかご教示いただきたい。

<佐藤自立支援係長>

3年を最長に短縮できることとなっており、障がいの症状が確定していない方については、短いスパンで認定調査・審査を行う必要があるためである。

<E 委員>

成年後見支援センターが立ち上がるとのことであるが、センター設置前と設置後で制度利用の在り方がどのように変わるのかを説明いただきたい。

<新谷事務局長>

現状では、市の中に公的な相談窓口は特段設けておらず、身近な司法書士などに相談していただいたり、認知症高齢者の方については、包括支援センターが後見申立手続きの支援を行うなど様々な形で制度利用につなげている状況である。また、市としては、身寄りのない方で申し立てをすることができない方に対しては、市長が代わって申し立てを行う市長申立という制度があり、これまでも実際に運用してきているところである。

このように、現在は個別にそれぞれの機関や制度で対応しているところであるが、センターを設置することにより相談窓口を一元化を図るものである。

(6) 専門部会の設置について

<新谷事務局長>

新たな専門部会として「手話言語条例推進専門部会」を設置することを提案したい。

提案趣旨

手話言語条例の制定に向けては、手話言語条例専門部会での協議経過等を協議会定例会に報告し、ご意見をいただきながら議論を進めてきた。

今後も、条例に基づく施策の進捗や新たな施策に関する協議については、本協議会と情報共有、意見交換しながら、進めていくのが良いのではと考えている。

<荒会長>

手話言語条例については本協議会で議論してきた経過もあり、同条例に掲げる施策の推進等については、協議会内に専門部会を設置し、その進捗等を共有していくことは有意義であると考えているが、委員各位に設置の是非をお諮りしたい。

～異議なし～

<荒会長>

異議がないようなので、手話言語条例の推進に関する専門部会を新たに設置する。

引き続き、部会長を選出したい。協議会設置要綱第6条で専門部会の部会長は「会長が指名する」こととなっていることから、指名させていただく。手話言語条例推進専門部会の専門部会の部会長は、千歳聴力障害者協会会長である佐藤義典委員が適任であると考えているが、いかがか。

～異議なし～

<荒会長>

佐藤委員には今後の専門部会の運営をお願いする。

部会構成については、本協議会の同意を求めることとなるが、早速だが、佐藤部会長、部会の構成機関について案があればお示しいただきたい。

< 佐藤部会長 >

構成機関は、従前の「手話言語条例専門部会」と同様、「千歳聴力障害者協会」、「千歳身体障害者福祉協会」、「千歳手話の会」、「手話サークルしらかば」、「千歳要約筆記の会やませみ」、「北海道手話通訳問題研究会道央支部千歳・恵庭班」、「千歳市社会福祉協議会」の7つの関係機関で構成したい。

< 荒会長 >

手話言語条例推進専門部会の委員構成について、案が示されたが、いかがか。

～異議なし～

< 荒会長 >

それでは、手話言語条例推進専門部会の設置が承認されたので、佐藤部会長を中心に、部会の活動方針などの協議を進め、次回の協議会でご報告いただきたい。

(7) 令和元年度千歳市障がい者地域自立支援協議会運営方針

< 各部会の令和元年度活動方針について >

相談支援部会(奥貫部会長)

基本的には例年同様、普段の相談業務における困難事例等の情報共有・事例研究を行っていくとともに、障がい福祉勉強会の開催を軸に運営していくこととする。

このほか、今年度は、地域生活支援拠点等の整備に向けた地域課題の整理などを行っていくことになるので、他の部会とも情報共有しながら現状と課題の把握を行っていくこととなるので、委員各位の協力をお願いします。

こども部会(田口部会長)

障がい児をめぐる様々な地域課題の共有、解決策の検討を行うほか、情報交換会・保護者向け勉強会、支援者向け学習会の企画、開催を行う。

支援者向け学習会として実施する予定の学校見学については、昨年見学した2校(南幌養護学校、千歳高等支援学校)に加え、北進小中学校の見学も行う方向で調整したいと考えている。また、レッツスマイルについては例年同様、夏・冬の2回の開催を予定しており、夏については8月10日に小樽総合博物館の見学を予定している。さらに、昨年度に引き続き、はたらく部会と共同で放課後児童デイ等の説明会を開催する。

はたらく部会(下川部部会長)

年4回から5回の部会開催を予定している。

視察研修と合同説明会の開催に向けた協議を中心に、就労支援における困難事例等の情報共有、解決に向けた意見交換を行っていききたい。

合同説明会は昨年度に引き続きこども部会と共同で開催する。昨年度は、各事業所の作品販売等を行ったところ好評であったことから、今年度も引き続き同様の形での開催を予定している。なお、合同説明会については、障がい福祉に興味のある方はもちろん、一般の方々にも多く来場いただけるよう周知方法を工夫する必要があると考えている。

地域生活部会(岡田部会長)

在宅生活に関する地域課題の掘り起こしを目的に現状把握を行っていききたいと考えているが、在宅の課題を把握するのはとても難しく、まずは気軽に相談できる場の確保などを検討していくこととする。

また、震災への対応について各部会と情報共有を図るとともに、地域の父母の会など身近な団体から情報を入手し、今後の活動につなげていききたい。

進路連絡会議(横山事務局次長)

今年度も協力組織として運営していくこととし、年2回の開催を予定している。卒後のB型利用に関するアセスメントに関する就労移行支援事業所や相談支援事業所の確保を行うほか、卒後の円滑な地域生活の支援に努めていきたい。

差別解消・虐待防止専門部会(佐藤事務局次長)

引き続き、「高齢者・障がい者虐待防止ネットワーク会議」との合同開催を基本としつつ、今年度は、支援者向けの研修会あるいは勉強会のようなものを企画・開催したいと考えている。

6 その他

< 荒会長 >

厚生労働省では、高齢者のみならず、生活上の困難を抱える障がい者や子どもなどが地域において自立した生活を送ることができるよう、一般生活の中に福祉の考え方を取り込み、地域を「丸ごと」支える支援体制、いわゆる「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現に向けた取組が示されている。

こうした流れの中、障がい福祉においては地域生活支援拠点の整備が求められている。

地域生活支援拠点については、5つの機能(相談、緊急時の受け入れ、体験の機会・場の提供、専門的人材の確保、地域の体制づくり)を有することが原則とされているが、地域の実情に応じて必要な機能を市町村が判断できることになっており、最低3つの機能を有することで整備済みとして差支えないとの見解が示されている。このことから、千歳市においても、第5

期障がい福祉計画の計画期間中にまずは整備に向けた取組を進め、次期計画の中で機能の強化や不足する機能の追加などを検討していくこととなる。

拠点を整備する上では、不足する支援などの現状を把握し、地域診断を行いながら進めていかなければならず、本協議会の中でよく議論していく必要があるので、委員各位のご協力をお願いしたい。

7 閉会

荒会長による閉会宣言で閉会

令和元年度 第1回千歳市障がい者地域自立支援協議会定例会議兼地域生活支援全体会議

日時：令和元年7月25日(木) 9時30分

場所：総合福祉センター4階402号室

<次 第>

1 開 会

2 依頼状交付

3 あいさつ

4 部会長選出（はたらく部会）

5 議 題

（1）平成30年度千歳市障がい者地域自立支援協議会活動報告

相談支援部会

こども部会

はたらく部会

地域生活部会

進路連絡会議

差別解消・虐待防止専門部会

（2）平成30年度千歳市障がい者総合支援センター運営事業報告

（3）平成30年度千歳地域生活支援センター相談支援強化事業報告

（4）平成30年度千歳市障がい者就労支援事業報告

（5）千歳市からの報告

令和元年度千歳市の障がい福祉施策等について

令和元年度千歳市障害者就労施設等からの物品等の調達方針

平成30年度千歳市障害支援区分認定審査会審査結果

（6）令和元年度千歳市障がい者地域自立支援協議会運営方針

6 その他

7 閉 会

千歳市障がい者地域自立支援協議会委員名簿

任期：令和2年10月28日まで

選考区分		所属機関・団体等	委員役職・氏名	区分補足	備考		
(1) 公募	1		森 勝 子	障がい者家族			
	2		古 田 聖	障がい当事者			
	3		横 山 史 紀	一般市民			
(2) 福祉、保健、医療、雇用、教育等に知識及び経験を有する者	4	千歳公共職業安定所	上席職業指導官	青山 新 吾	雇用・労働行政機関職員	新任委員	
	5	北海道石狩振興局保健環境部 千歳地域保健室健康推進課	保健係長	柳 田 基 貴	保健・医療行政機関職員	新任委員	
	6	千歳病院	精神保健福祉士	益 山 桂 太 郎	医療機関職員		
	7	社会福祉法人 千歳いずみ学園	総合施設長	荒 洋 一	障害者支援施設役員		
(3) ア) 関係機関及び団体等の代表者又は推薦を受けた者障がい者又は障がい児の家族団体又は支援団体等	8	千歳身体障害者福祉協会	会長	伊 東 ミ ッ 子	身体障がい当事者		
	9	千歳聴力障害者協会	会長	佐 藤 義 典	聴力障がい当事者団体		
	10	千歳視覚障害者福祉協会	会長	菊 池 悦 子	視覚障がい当事者団体		
	11	千歳市肢体不自由児者父母の会	会長	岡 田 美 智 子	身体障がい者家族		
	12	千歳市手をつなぐ育成会	会長	青 木 繁 雄	知的障がい者家族		
	13	千歳市つくし会	会員	大 村 徳 子	精神障がい者家族		
	イ) 福祉、保健、医療、雇用、教育等に関する関係機関又は団体等	14	千歳市民生委員児童委員連絡協議会	会長	佐 藤 貞	地域福祉団体	
		15	千歳市社会福祉協議会	専従通訳者	川 北 美 由 紀	地域福祉団体	新任委員
		16	千歳商工会議所	事務局長	宮 下 明	経済団体	
		17	北海道千歳高等支援学校	教諭	斎 藤 芳 朗	高等支援学校	新任委員
		18	千歳市立北進小中学校 (相談支援・地域連携部)	教諭	五 東 康	特別支援学級	新任委員
		19	北海道南幌養護学校	教諭	中 川 道 博	特別支援学校	
		20	就労推進室やませみ	就労推進員	下 川 部 志 穂	就労推進員	新任委員
ウ) 障害福祉サービス事業所等	21	生活介護ステーションゆみな/ 支援センターゆみな	所長	清 水 道 代	通所系障がい福祉サービス事業所		
	22	就労移行支援事業所ゆうび/ 就労継続支援事業所ゆうび	所長	山 崎 千 尋	就労系障害福祉サービス事業所	新任委員	
	23	青葉の杜 / 青葉の郷	施設長	森 本 洋 行	GH・CH、自立訓練事業所		
	24	サポートセンターエブリ	所長	田 口 幹 子	移動支援・日中一時支援事業所		
エ) 相談支援事業所等	25	千歳地域生活支援センター	センター長	奥 貫 あ い 子	千歳市委託相談支援事業所		
	26	千歳市地域包括支援センター	北区地域包括支援センター長	富 永 壮	介護保険サービス		

令和元年度 第1回 千歳市障がい者地域自立支援協議会
定例会議兼全体会議出席者名簿(関係機関等)

	所属機関・団体等名	氏 名
1	(株)アガペ	石崎 道裕
2	就労支援センター Om-net	牧野 佐江子
3	千歳いずみ学園保護者会	佐藤 眞作
4	サポートセンター ユリーカ	芦田 光祝
5	千歳要約筆記の会「やませみ」	打矢 郁子
6	新富ヘルパーステーション	千葉 登茂子
7	(株)ウインドバレー	千葉 豊美
8	いずみワークセンター	今井 正昭
9	訪問看護ステーションわかち愛	田口 さつき
10	身体障がい者相談員	白木 諭
11	北海道手話通訳問題研究会	中村 秀子
12	情緒障がい者父母の会	須田 京子
13		伊藤 紀子
14		平川 ちか子
15		田宮 孝子
16	障がい者相談支援センター 夢民	戸田 健一
合計	15機関・団体	16人

令和元年度第1回

千歳市障がい者地域自立支援協議会定例会議兼地域生活支援全体会議

当日配付資料

5 議題

(1) 平成30年度千歳市障がい者地域自立支援協議会活動報告

相談支援部会 (P 1 ~ P14)

こども部会 (P15 ~ P34)

はたらく部会 (P35 ~ P42)

地域生活部会 (P43 ~ P44)

進路連絡会議 (P45 ~ P48)

平成 30 年度 第 1 回 相談支援部会 報告	
日 時	平成 30 年 4 月 25 日(水) 16:00 ~ 17:15
場 所	千歳市しあわせサポートセンター 会議室
参 加 者	千歳地域生活支援センター(奥貫センター長(部会長)・福澤相談員)、こども療育課(影山相談員・大久保相談員)、千歳こぶしくリニック(松田相談員)、千歳病院(益山主任・高橋相談員)、向陽台地域包括支援センター(林センター長)、障がい者支援課(松田課長)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長・中土井相談員)、夢民(戸田氏)
要 旨	<p>1. 年度初めの確認</p> <p>2. 確認事項(障がい福祉勉強会、事業所ガイドブック、地域課題について)</p> <p>3. その他</p>
会議内容	<p>1. 年度初めの確認</p> <p>各機関から自己紹介、各機関の体制変化の報告、昨年度の総括の報告、今年度の方針の確認を行った。</p> <p>(1)今年度の方針について</p> <p>障がい福祉勉強会を継続して開催する。 事業所ガイドブックを完成させる。 事例検討から地域課題の抽出を行う。 他の部会との連携を考える。</p> <p>(2)部会の開催について</p> <p>開催頻度は月 1 回を予定している。 開催時期は月の中旬以降で各機関の参加可能な日程で調整する。 開催場所はしあわせサポートセンター会議室、開催時間は 16:00 ~ 17:15 とする。</p> <p>2. 確認事項</p> <p>(1)障がい福祉勉強会について</p> <p>一定数の人数が参加しており、関係者同士の繋がりができているなどの効果が出ていると判断できるため、今年度も継続して行う。 相談支援部会の一部の構成員が勉強会の企画チームとなっており、負担となっていたため、今年度はできるだけ役割分担し担当者の負担を減らすようにする。 勉強会企画チームがほぼ福祉関係者であったため、医療分野の意見を取り入れるために医療関係者も企画に参加してもらい、人員については医療機関で検討をしてもらう。</p> <p>(2)事業所ガイドブックについて</p> <p>年度が変わり新しい事業所等もできているため、準備ができ次第関係者に報告する。</p> <p>(3)地域課題</p> <p>地域課題を直接出してもらうのではなく、事例を出してもらい、事例検討の中から課題を抽出して行く。</p> <p>3. その他</p> <p>(1)次回の開催は5月中旬以降で調整をする。</p>
作 成 者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

平成 30 年度 第 2 回 相談支援部会 報告	
日 時	平成 30 年 6 月 13 日(水) 16:00 ~ 17:15
場 所	千歳市しあわせサポートセンター 会議室
参 加 者	千歳地域生活支援センター(奥貫センター長(部会長)・福澤相談員)、こども療育課(石村相談員)、北星病院(水梨相談員)、障がい者支援課(松田課長)、千歳市障がい者総合支援センター Chip(横山センター長・中土井相談員)、夢民(戸田氏、長谷氏)
要 旨	<p>1. 障がい福祉勉強会について</p> <p>2. 事業所ガイドブックについて</p> <p>3. 地域課題(シートの活用)について</p> <p>4. その他</p>
会議内容	<p>1. 障がい福祉勉強会について</p> <p>(1) 前年度と同様の内容で年 4 回の開催を予定している。第 1 回目は 7 月 30 日に、千歳市の概要と特色、自立支援協議会の機能と目的についての講義。講義後は支援者同士でグループワークを行う。第 2 回目以降は就労、住まい、相談についての内容で考えており、千歳市の障がい福祉への理解を深められるようにする。</p> <p>(2) 周知については、部会構成員に直接渡すのが一番効果的だったため、今回も事務局と相談しできる範囲で手渡す。</p> <p>(3) 当日は企画チームが中心に動く予定だが、今年度から企画に参加した部会構成員には講義後のグループワークで進行を担当してもらう。</p> <p>2. 事業所ガイドブックについて</p> <p>(1) 前回同様、準備ができ次第関係者には報告をする予定としている。</p> <p>(2) はたらく部会から、各事業所の状況の確認についてのメールがきているが、可能であれば内容を統一した方が良いのではないかと。様式については、全事業所が一覧になっていてかつ各事業所の概要がわかるものがあると良いのではないかと。</p> <p>3. 地域課題(シートの活用)について</p> <p>(1) 障害基礎年金の受給と経済基盤について 障害年金申請する際にどの病院にも通院していない人が、医師の診断書を依頼する場合にはどこの病院に依頼するのが良いのか等の相談がある。 最近では年金を申請する際に診断書を書いてもらえないと困るため、早めに動く人が多い。どの病院に行けば融通を利かせてもらえるのかではなく、現在の本人の状況を正しく話すかが大切ということを伝えていくべきではないかと。 軽度の障がいでも年金の申請が却下となり、稼働収入も見込めず生活保護を受給するしかないというケースが増えるのではないかと。</p> <p>4. その他</p> <p>(1) 障がい者支援課松田課長から、平成 30 年度第 1 回千歳市障がい者地域自立支援協議会定例会兼全体会議の報告があった。 平成 30 年 5 月 29 日開催。参加者は 52 名(委員 18 名、関係機関 25 名、事務局 9 名)。 千歳市では人口対策として、みんなで 97,000 プロジェクトを行っており、平成 32 年度に人口 97,000 人到達を目標としていたが、平成 30 年 4 月の段階で目標に到達した。人口の伸び以上に高齢者、障がい福祉サービスの利用者は増加傾向がみられる。市では高齢者も含めて地域包括ケアシステムの構築を進めている。障がい分野についても、障が</p>

	<p>い者計画、障がい児福祉計画のもとに地域での理解・共生・安心をキーワードに支援をしてゆく。</p> <p>就労推進室やませみの山本氏が退職し、はたらく部会の部会長の後任は佐藤氏となった。</p> <p>平成 29 年度自立支援協議会活動報告。</p> <p>平成 30 年度障がい福祉施策の予算や制度改正について</p> <p>障がい者就労施設からの物品調達について、目標は 100 万円として取り組む。昨年度の調達実績は約 60 万円。今年度は達成のため、市の関係部局に積極的に周知している。</p> <p>障害支援区分認定審査会、審査結果(件数、伸び率について)の報告</p> <p>サービス等利用計画について概要説明</p> <p>平成 30 年度千歳市障がい者地域自立支援協議会運営方針について</p> <p>みんなをつなげる会の発足について</p> <p>意思を表明して情報を容易に入手することが当たり前になる社会を目指すため、6 月 7 日に設立された。7 日の勉強会の講師として市に依頼があったため、障がい福祉制度、ヘルプマークについての説明を行った。参加者は 80 名程度だった。手話言語条例ができ、聴力障がいの人に対する手話が言語と捉えたコミュニケーション支援が整ってきたため、それ以外の障がいの人もコミュニケーションを取り合える市を目指して活動に取り組んでいく方針であり、今後市民協働事業で活動の予定。</p> <p>(2) 支援課への質問等</p> <p>手話言語の専門部会のその後の動きの見通しはあるのか。</p> <p>別の形で行う、名前変えて継続、メンバーを変えて継続など、やり方を検討する。</p> <p>虐待専門部会はあるのか。</p> <p>毎年 2 回行っているが昨年度は予定が合わず 2 回目は未開催。</p> <p>サービス等利用計画について、これから者と見で立て方等や中身の連携を行うのか</p> <p>特別な取り決めはないが、法律に従い作成を行うことを標準とする。</p> <p>(3) 次回の開催は 7 月 23 日～27 日の間で調整をする。</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

平成 30 年度 第 3 回 相談支援部会 報告	
日 時	平成 30 年 7 月 25 日(水) 16:00～17:15
場 所	千歳市しあわせサポートセンター 会議室
参 加 者	千歳地域生活支援センター(奥貫センター長(部会長)・福澤相談員)、こども療育課(大久保相談員)、千歳こぶしクリニック(松田相談員)、障がい者支援課(松田課長)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長・中土井相談員)、向陽台包括支援センター(林センター長)、夢民(戸田氏、阿部氏)
要 旨	<p>1. 障がい福祉勉強会について</p> <p>2. 地域課題(シートの活用)について</p> <p>3. その他</p>
会議内容	<p>1. 障がい福祉勉強会について</p> <p>(1)現時点で 25 名程度の申込みがある。前半は講義で千歳市の概要については障がい者支援課 佐藤係長、自立支援協議会の機能と目的については奥貫センター長にお願いする。後半のグループワークは千歳病院 高橋 氏の司会によって行う。グループワークは横のつながりを深めるためにテーマを決めて話をしてもらおう交流会として行う。</p> <p>今回勉強会の周知がされていない機関があったため、参集範囲をどこまでとするか 2 回目以降に向けて整理する。</p> <p>2. 地域課題について</p> <p>(1)前回の障害年金申請の際にどこの病院にどのように受診するとスムーズに進むか、と相談されることが多いとの話があった。</p> <p>どれくらい前に受診していると良いのかということに対し、千歳こぶしクリニックから、受診に来る人には 20 歳を超えてから受診する人と 10 代の頃に早めに受診し概要を知っている人の 2 パターンがいる。</p> <p>病院としては、受診したその日に診断書を依頼されるよりも 10 代の頃から受診していたの方が申請がスムーズできると考えている。との話があった。</p> <p>(2)母の希望が非常に強く、本人の活動へ大きな影響がある事例について検討を行った。</p> <p>3. その他</p> <p>(1)千歳市内に就労継続支援 B 型事業所が増える予定がある。</p> <p>(2)高等支援学校から B 型を希望する生徒が例年より少なく、現状 2、3 人程度しかいない。</p> <p>(3)ひきこもりについての相談が増えてきている。家族が外に出なくても良い環境を作っているのも課題である。本人の希望が少ないので、そのために仕事をしようという気持ちにもなりづらい。両親が本人の障がい特性を理解していないケースもあり、助言をすると上手くいく場合があるので、両親へのアプローチも増えてきている。</p> <p>(4)次回の相談支援部会開催は各機関の予定を考慮し 8 月の下旬で調整をする。</p>
作 成 者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

平成30年度 第1回 相談支援部会 障がい福祉勉強会 報告	
日 時	平成30年7月30日(月) 18:00~20:00
場 所	千歳市総合福祉センター 402号室
参 加 者	市内23機関38名(事務局含む)
要 旨	<p>1.開会挨拶</p> <p>2.講義</p> <p>3.交流会</p>
会議内容	<p>【テーマ】「千歳市の現状と自立支援協議会を知ろう！」</p> <p>1. 開会挨拶 千歳市障がい者支援課長 松田 和也 氏</p> <p>2. 講義</p> <p>(1)「千歳市の概要と特色」 千歳市障がい者支援課自立支援係長 佐藤 匡広 氏 千歳市の概要として、名前の由来や人口について説明があり、今年4月に人口9万7千人を突破した。人口増加に伴い、障がい福祉サービスを利用する人が増加している。千歳市の工業に着目して、クイズ形式での説明があった。</p> <p>(2)「地域自立支援協議会の機能と目的」 千歳地域生活支援センター センター長 奥貫 あい子 氏 地域自立支援協議会の制度上の位置付けや役割・機能について説明があった。</p> <p>3. 交流会 1グループ7、8名の5グループに分かれ、講義終了後に交流会を行った。 初めに自己紹介と「現在の仕事に就いたきっかけ」、「ストレス解消法」をテーマとして各グループで話し、最後にアンケートを回収した。</p> <p>(1)アンケート集計結果 講義について ・社会科の授業のようであったためになった。自立支援協議会について資料がまとまっていてわかりやすかった。 ・工業のことについてあまり学ぶ機会がなかったので学ぶことができてよかった。 ・自立支援協議会についてよくわかっていないことが多かったが、少しわかった気がする。 ・千歳市について改めて知ることができてとても勉強になった。</p> <p>交流会について ・初めてこのような勉強会に参加したが、同じ環境で勤めている方々と話し、情報交換ができてよかった。また参加したい。 ・他の事業所の方と関わる機会がないため、様々な意見を聞くことができてとても参考になった。 ・とても学びになった。 ・若い方の意見や、管理者の話しなど様々な立場の方の意見を聞くことができて良かった。 ・気軽に話せる雰囲気よかった。 今後取り上げてほしいテーマについて ・地域課題の実例等の紹介</p>
作 成 者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

平成 30 年度 第 4 回 相談支援部会 報告	
日 時	平成 30 年 8 月 24 日(金) 16:00～17:15
場 所	千歳市しあわせサポートセンター 会議室
参 加 者	千歳地域生活支援センター(奥貫センター長(部会長)・福澤相談員)、こども療育課(石村相談員)、こぶしクリニック(松田相談員)、北星病院(水梨相談員)、障がい者支援課(佐藤係長)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長・中土井相談員)、向陽台包括支援センター(林センター長)、夢民(長谷氏)
要 旨	<p>1. 障がい福祉勉強会について</p> <p>2. 地域課題について</p> <p>3. その他</p>
会議内容	<p>1. 障がい福祉勉強会について</p> <p>(1) 7月30日開催の障がい福祉勉強会についてアンケート集計結果をもとに反省を行った。講義については、普段聞く機会のない話を聞くことができ良かったとの感想があった。交流会については、前半の講義のみを聞いて帰る人がいたため、今後やり方を検討する。ストレス解消がテーマとなった際には、仕事以外の所でストレスを解消しているという人が多かった。</p> <p>(2) 次回は10月頃に開催予定。テーマは就労とし、就労継続支援A型、B型、就労移行支援の事業者を講師として招き、サービス形態の説明と実践報告をしてもらう予定である。依頼先、周知先について今回の反省を生かしながら検討する。</p> <p>2. 地域課題について</p> <p>(1) 本人宅に訪問する際、二人体制での訪問が難しい場合に相談員の性別はどうしているか。また、衛生面で不安のある家庭やペットのいる家庭はどのように対応しているか。との質問があった。</p> <p>できる限りは二人で訪問するようにしているが、どうしても一人で訪問しなければならない場合は同性が訪問するよう心がける。</p> <p>衛生面やペットについては、我慢しなければならない現状がある。</p> <p>利用者との関係性を優先してしまいがちである。</p> <p>計画相談の件数が増えるに伴い、ケースについて担当者しかわからないということがあるため、情報共有という意味で複数人で対応することも必要である。</p> <p>3. その他</p> <p>(1) 千歳市からの連絡事項は特になし。</p> <p>(2) 他の部会との連携について次回以降の議題として考える。</p> <p>(3) 次回は9月18日、19日のどちらかで開催予定。</p>
作 成 者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

平成 30 年度 第 5 回 相談支援部会 報告	
日 時	平成 30 年 9 月 19 日(金) 16:00 ~ 17:15
場 所	千歳市しあわせサポートセンター 会議室
参 加 者	千歳地域生活支援センター(奥貫センター長(部会長)・福澤相談員)、こども療育課(石村相談員)、こぶしクリニック(松田相談員)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長・中土井相談員)、向陽台包括支援センター(林センター長)、夢民(長谷氏)
要 旨	<p>1. 地域課題について9月6日の震災を踏まえて災害対応等</p> <p>2. 障がい福祉勉強会について</p> <p>3. その他</p>
会議内容	<p>1. 地域課題について</p> <p>(1) 9月6日の震災を受け、災害時の対応についての報告や課題について話し合った。 電話で安否確認を行っていたが、停電により固定電話が通じず、携帯電話の通信状況が非常に悪く、地域によっては電話、メールともにつながらない所があった。職員間の連絡についても同様であった。 普段の記録をパソコンで行っているため、紙媒体の記録が最新ではなかったり、ノートパソコンが使えてもサーバーに保存しているデータが確認できなかったため、緊急時にも記録が確認できるよう紙媒体のデータを更新しておくことやノートパソコンがオフラインでも閲覧できるデータを保存しておくのも一つの手段であるとの意見があった。 防災無線が聞き取りづらいとの報告があった。 災害用のマニュアルがあまり役に立たなかったと感じた機関もあり、今回体験したことをもとに改めて作成する必要がある。</p> <p>2. 障がい福祉勉強会について</p> <p>(1) 日程は講師の予定との兼ね合いで10月12日に開催する。内容は、就労支援の一般的な支援内容についての講義をしてもらった後、実際に支援を行っている事業所から実践報告をしてもらう。 また、就労移行支援の報告を依頼していたゆうびが急遽参加できなくなったため、いずみワークセンターに改めて依頼をする。</p> <p>3. その他</p> <p>(1) 次回は10月の下旬の日程で調整を行う。 (2) 重症心身障害の人の支援について、震災によって厚真リハビリが利用できなくなったため、支援体制について千歳市の地域課題として考えなければならない。</p>
作 成 者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

平成30年度 第2回 相談支援部会 障がい福祉勉強会 報告	
日 時	平成30年10月12日(金) 18:00~20:00
場 所	千歳市総合福祉センター 402号室
参 加 者	市内27機関54名(事務局含む)
要 旨	<p>1. 講義</p> <p>2. 実践報告</p> <p>3. 交流会</p>
会議内容	<p>【テーマ】「就労支援の実際について知ろう！」</p> <p>1. 講義「障がい者が利用できる就労サービスについて」 千歳地域生活支援センター 渡邊 亜由美 氏 実践報告の前段として、就労サービスの種類について説明があった。 就労継続支援A型、B型、就労移行支援についてそれぞれの特徴や対象となる利用者についてや就労アセスメントの概要の説明があった。</p> <p>2. 実践報告</p> <p>(1) 就労継続支援B型事業所 サークルエイト 青木 繁雄 氏 資料をもとに事業所の特色や作業内容について説明があった。 市内のB型事業所で農作業などの外での作業を中心に行なっている事業所が少ないことや前職の経験を活かして福祉事業を始めた経緯などの話があった。</p> <p>(2) 就労継続支援A型事業所 ひまわりの会 稲船 美貴子 氏 飲食店ということでシフト勤務のため朝型夜型など本人が働きやすい時間に合わせられるメリットがある。施設外就労については、利用者、事業所、企業、地域それぞれに相乗効果が生まれることが重要であると感じている。</p> <p>(3) 就労移行支援事業所 いずみワークセンター 玉井 俊導 氏 就労移行支援について、対象者や千歳市内の現状について障がい福祉計画の資料を用いて説明があった。近年就労移行支援を利用する人は高等支援学校卒業直後の未成年の人が多いため、仕事をする目的を見出せない人がいる。</p> <p>3. 交流会</p> <p>講義、実践報告終了後に1グループ7、8名の8グループに分かれ交流会を行った。各グループでファシリテーターの進行のもと、自己紹介、講義、実践報告を受けての感想を話し、最後にアンケートを回収した。</p> <p>(1) アンケート集計結果</p> <p>講義について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の事業所でも取り入れたいことがたくさんあり、勉強になった。 ・実践報告でヒントになる部分は勉強になった。 ・就労移行についてあまり知らなかったので、説明を聞いて良かった。 <p>交流会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の問題、家庭環境が仕事に影響が出てしまって継続できない等、新たな問題を知れて良かった。 ・様々な業種の方々とお話しができて勉強になった。 <p>(2) 今後取り上げてほしいテーマ等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労意欲を引き出す声かけ、支援向上の取り組み方 など
作 成 者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

平成 30 年度 第 6 回 相談支援部会 報告	
日 時	平成 30 年 10 月 26 日(金) 16:00～17:15
場 所	千歳市しあわせサポートセンター 会議室
参 加 者	千歳地域生活支援センター(奥貫センター長(部会長)・福澤相談員)、こども療育課(石村相談員)、こぶしクリニック(松田相談員)、向陽台包括支援センター(林センター長)、夢民(長谷氏)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長・中土井相談員)
要 旨	<p>1. 障がい福祉勉強会について</p> <p>2. 地域課題について</p> <p>3. その他</p>
会議内容	<p>1. 障がい福祉勉強会について</p> <p>(1)10月12日開催。「就労支援について学ぼう」とテーマを設定し、就労継続支援A型、B型、就労移行支援について基礎の理解を目的として行われた(参加者50名)。前半、千歳地域生活支援センター渡辺氏より各サービス内容の講義を行った後、後半は事業者の実践報告を、B型をサークルエイト青木氏、A型をひまわりの会稲船氏、移行をいずみワークセンター玉井氏に頂いた。全体的な利用者の傾向としてお金の為に働くという意識はあまりなく、就労意欲に欠ける利用者も多いとのこと。その後、講義を踏まえてグループワークをし勉強会を終えている。勉強会後の懇親会にも20名ほど参加している。今後、住居、相談についての勉強会を予定している。</p> <p>2. 地域課題について</p> <p>(1)震災対策について、幸いにして多くの被害のなかった千歳市ではあるが、経験を活かし今後の活かしていく事が必要との意見があり、情報共有や課題整理について継続して検討して行く事を話し合った。</p> <p>避難所の情報やインフラについてなど、災害時の情報発信の仕方にもついての検討も含めて次回以降に事例検討も検討して行く事で確認をした。</p> <p>3. その他</p> <p>(1) 次回は11月21日か27日の日程で調整を行う。</p> <p>(2) 合同説明会についての案内</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

平成 30 年度 第 7 回 相談支援部会 報告	
日 時	平成 30 年 11 月 27 日(火) 16:00~17:15
場 所	千歳市しあわせサポートセンター 会議室
参 加 者	千歳地域生活支援センター(奥貫センター長(部会長)・福澤相談員)、こぶしクリニック(松田相談員)、夢民(戸田氏)、向陽台包括支援センター(林センター長)、北星病院(水梨相談員)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長・中土井相談員)
要 旨	<p>1. 障がい福祉勉強会について</p> <p>2. 地域課題について</p> <p>3. その他</p>
会議内容	<p>1. 障がい福祉勉強会について</p> <p>(1) 第3回目は住居についての勉強会を予定している。福祉サービスで利用できる住居について講義を行い、各障がい(精神・知的・身体)を主たる支援対象としている事業者から実践報告をしてもらう形式とした。講義部分を青葉の里の稲富氏、実践報告をそれぞれ(精神:グループホーム新星 山崎氏・知的:いずみ学園 仲鉢氏・身体:めいぶる高橋氏)に依頼した。現段階の申し込み状況は6名であり、さらに周知を継続する。</p> <p>2. 地域課題について</p> <p>(1) 課題共有シートを使用し事例検討を行った。</p> <p>「アパートで一人暮らしをしている方の支援で、関わりを拒否する方の支援で複数機関が関わっている場合にどの機関が主になり、どのように関わるとよいか」との課題が出た。これに対し、周りから見ると心配だが本人が困っていない為に助けを必要としていないのではないかと、困り感を感じて本人から助けを求めてくるまでは見守り程度で良いのではないかと意見が出た。一定期間通院しなかった場合に連絡をする、定期的に安否確認する体制をあらかじめ各機関で決めておくなどの方法が考えられるとの意見がでた。電気メーターや水道メーターは所在・安否が確認しやすく、状況が把握しやすい。また近隣の住民が日常的に見守ってくれている事例もある様子。いずれかの機関が介入し対応する場合、土日夜間に毎回対応するのは難しいので、本人が自分で対応してゆける力をつけてもらうことも大切である。そうしてゆくことで担当者の変更等、体制が変わっても順応して対応できると考えられるとの意見も出ている。</p> <p>生活が上手くいかない時に本人の問題か支援の問題かの判断が難しい時でも、本人は自分らしい生活をしていきたいという気持ちで生活される時に、支援者としてアドバイスに苦慮するとの意見があり、今の生活に対しての良し悪しや、できたことできなかったことの両方がある中で、「福祉だけ、医療だけではなんともならない」「人材が足りない」「本人のエンパワメントが足りなかった、または途中だった」など様々な課題があり、結果を見て良し悪しのジャッジをしてしまうと問題の追及する方向が偏ってしまう恐れがあると考えられる。いろいろな角度で考えられる場があるので、判断を急がずに経過を確認していくことも大切ではないかと意見がでた。</p> <p>3. その他</p> <p>(1) 次回は年始の1月の中旬の日程で調整を行う。</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

平成30年度 第3回 相談支援部会 障がい福祉勉強会 報告	
日 時	平成30年12月14日(金) 18:00~20:00
場 所	千歳市社会福祉協議会 2階会議室
参 加 者	市内22機関39名(事務局含む)
要 旨	<p>1. 講義</p> <p>2. 実践報告</p> <p>3. 交流会</p>
会議内容	<p>【テーマ】「障がい者の住まいと必要な支援について学ぼう！」</p> <p>1. 講義「障がい者が利用できる居住系サービスについて」 社会福祉法人 晃裕会 稲富 裕幸 氏 実践報告の前段として、居住資源の共同生活援助、宿泊型自立訓練施設、施設入所支援、短期入所について講演頂く。共同生活援助(グループホーム)については、介護サービス包括型、外部サービス利用型、今年度から新設された日中サービス支援型、サテライト型住居の説明があった。施設入所支援とグループホームの違いや、障がい福祉サービス以外に市営住宅等の住まいの方の支援についても話がある。障がい者の住まいを考える際、その方の現状や必要な支援を考慮することが大切であるとお話を頂いた。</p> <p>2. 実践報告</p> <p>(1)障がい者支援センター めいぷる 高橋 和寛 氏 めいぷるの設立経緯について、肢体不自由児父母の会が母体であり、共同作業所立ち上げ時は知的障がいや精神障がいの方の行き場を増やす為、3障がいを対象として設立し現在は4つの事業を行なっている。グループホームについては現在入居している方の状況を説明され、電源コンセントの位置を高くし、床でくつろぐ入居者が触れないようにしていることや、プライバシーの配慮から居室や下駄箱に名前は明記せず、色分けするなどの配慮を行なっていると話があった。また、支援の課題として、緊急時対応、健康維持・管理、介護技術の向上、平準化の3点挙げられている。実際の生活場面の画像等で、支援の状況や生活の様子について説明があった。</p> <p>(2)いずみ寮 仲鉢 かおり 氏 はじめに概要として、現在グループホームで生活している方の年齢や日中活動先、職員の配置などについて説明があった。入所施設から生活の場をうつしてきた方が多いなか、近年は高等養護学校卒業に利用される方も増えており、大きな環境変化のため体調を崩し退所された方もいる。夜勤態勢は取っていないため、夜間の緊急時は職員の携帯に連絡することになっている。これまで通院は職員が同行していたが、現在は看護師を配置していると話があった。また9月6日の震災時については、食材の確保が困難で同法人の事業所間で分け合った。課題として、利用者の高齢化、夜勤態勢を取っていないことが挙げられている。</p> <p>(3)グループホーム新星 山崎 将史 氏 施設・設備の紹介がある。新星に入居している利用者の多くは精神科病院を退院してきた方で、入浴は毎日可能で順番も自由であり利用者同士で決めている。利用者のニーズに合わせた支援体制をもとに、自宅に近い環境作りや必要以上に干渉しないようにしている。生活している利用者は個室でプライベートの時間を大切にでき、入院中とは違った自由な生活を喜んでいる。グループホーム開設時には、反対の声や町内の行動を制限されていた。グループホーム職員が町内会役員になり、話し合いの場やつながりを持</p>

つことで解消されたとの話があった。

3. 交流会

1グループ7、8名の6グループに分かれ講義、実践報告終了後に交流会をしている。各グループでファシリテーターの進行のもと、自己紹介、講義、実践報告を行い、最後に感想を全体で共有している。

アンケート集計結果。

(1) 講義・実践報告について

- ・居住系サービスの種類を知ることができて勉強になった。
- ・なかなか具体的に聞く機会はなく、職員からの生の声で聞くことができて良かった。
- ・安全面に配慮した設備等、具体的な話しを聞くことができて参考になった。
- ・各事業所の特色、苦労や工夫、支援の方法がとても参考になった。
- ・精神障がい者の偏見について、改めて考えさせられた。

(2) 交流会について

- ・様々な職種の方の意見、施設の様子を聞くことができて良かった。
- ・講義、実践報告よりさらに具体的な部分や、理想についてなどそれぞれの思いも聞くことができて良かった。
- ・グループホーム、就労事業所の両方の話しを聞くことができた。連携の大切さを改めて感じた。
- ・もう少し時間があれば良かった。

(3) 今後取り上げてほしいテーマ等について

- ・共生型サービスについて
- ・精神科病棟について
- ・就労継続支援 B 型事業所、就労移行支援事業所で、グループホームの生活で活かせるような支援について
- ・保護者と過ごしている利用者本人に、将来の生活を考えてもらうにはどうしたらよいか。等の意見・感想を頂いている。

作成者 千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

平成 30 年度 第 8 回 相談支援部会 報告	
日 時	平成 31 年 1 月 31 日(木) 16:00 ~ 17:15
場 所	千歳市しあわせサポートセンター 会議室
参 加 者	千歳地域生活支援センター(奥貫センター長(部会長)・福澤相談員)、こぶしくリニック(松田相談員)、こども療育課(石村相談員)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長・中土井相談員)、向陽台包括支援センター(林センター長)
要 旨	<p>1. 障がい福祉勉強会について</p> <p>2. 地域課題について</p> <p>3. その他</p>
会議内容	<p>1. 障がい福祉勉強会について</p> <p>2月22日の開催に向けて準備を進めている。テーマは相談支援とし企画チームで検討している。昨年度の寸劇の合間に解説を入れていく形式が良かったので、今回もその形式でゆく予定。研修の目的であるサービス利用までの流れを把握できてない事が多い為、この機会に振り返ってもらおう。同時に利用者支援のポイント、援助関係、他者理解についても理解を深める。寸劇の事例は実際に現在関わっている利用者から抽出し、寸劇の合間とミニ講義として「援助関係と他者理解(講師:福澤)」「サービス利用までの流れ(講師:中土井)」を行う。</p> <p>居宅介護の支援について、制度として介護保険と障害サービスがどう違うのかについて基本に触れた方が良いのではという意見が出た。ケアプランとサービス等利用計画とでは、支援内容の伝え方に違いがあり理解を頂く機会を作っていく方向で話し合った。</p> <p>2. 地域課題について</p> <p>市内のある地域では、虐待に認定されたケースがゼロであるが、潜在的に虐待ケースが眠っている可能性もあるが出てこない。成年後見についても情報提供のみで終わっており市と連携して活動等はしていないが、障害福祉ではどうなのかとの話題がでた。</p> <p>障害の側でもここ数年の虐待事例はなく、潜在的なものはあると考えられるがケースとして上がってこない。</p> <p>この地域は外出して活動できる資源も少なく引きこもっているケースが多いため、親亡き後を心配されるケースが多い。他に相談窓口がないために包括支援センターに65歳未満からの相談も増えている傾向にある。</p> <p>相談に来られる人は特別な配慮をしなくても気持ちを発信できると考えられるが、上手く発信できない人達にどうやって来てもらうかが重要。きっかけ作りが難しく、地域の人の協力に頼らざるを得ない現状がある。地域生活部会等とも連携して考えていきたいテーマである。児童で課題のあるケースの掘り起こしについて、心配な児童は小学校3年生ぐらいでまわりが気付いたり本人が気付いたりしている。幼稚園等の集団に属さない子については家族との時間が大切だと伝えている。本人家族やまわりの気付きが早く、早い時期から療育に関わっているケースが多い。早期療育が効果を出しているので激しい自閉症の児童はあまりいなくなった印象があるとの話もあった。</p> <p>3. その他</p> <p>(1) 相談支援部会の参加メンバーが固定化されているので、現在相談支援部会に参加していない機関にも声をかけている。新たな角度からの話し合いも期待できるので、声をかける機関の案があれば意見を求める。</p> <p>(2) 千歳市指定障害児相談支援事業所より、1名が退庁し2名体制となっているが、1月から非常勤職員が加わり3名体制となった。</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

平成 30 年度 第 4 回 相談支援部会 障がい福祉勉強会 報告	
日 時	平成 31 年 2 月 22 日 (金) 18 : 00 ~ 20 : 00
場 所	千歳市社会福祉協議会 2 階会議室
参 加 者	市内 28 機関 41 名 (事務局含む)
要 旨	1. 講義 2. グループワーク
会議内容	<p>【テーマ】「障がい者への相談支援の実際について学ぼう！」～本人の強みを活かす為のかかわりとは～ 事業所見学後の面談場面(本人、相談員、グループホーム職員)・本人と相談員の個別面談場面・サービス担当者会議・モニタリングの場면을寸劇形式で再現。場面の間に 15 分程度の講義、グループワークを行っている。</p> <p>1. 講義</p> <p>(1) 「相談援助に必要な視点と関わり」 千歳地域生活支援センター 福澤 健一 氏 相談の際に、信頼関係を築くことが最適な支援をするための土台になっている。信頼関係を築くためには、理解できたと実感してもらえるような対応が求められる。まずは本人の気持ちを受容し、共感した上で意思を尊重した関わりが必要になる。</p> <p>(2) 「計画相談支援について」 千歳市障がい者総合支援センターChip 中土井 啓人 氏 計画相談支援についての説明があった。計画相談支援を利用するメリットについて関係機関と目標や、配慮が必要な点等を共有しながら進めることができるとの話があった。</p> <p>2. グループワーク</p> <p>1 グループ 7、8 名の 6 グループに分かれ、講義終了後に意見交換をしている。寸劇の面談場面とミニ講義「相談援助に必要な視点と関わり」を踏まえて、日々の支援について振り返りをグループごとで行ない共有している。</p> <p>アンケート集計結果。</p> <p>(1) 寸劇・講義について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寸劇とナレーションによって、本人、支援者(相談員、グループホーム職員、就労支援事業所職員、デイケア職員)それぞれの視点での見え方、考え方がよくわかった。 ・同じ内容でも言葉を変えるだけで伝わり方が和らぎ、利用者のやる気にも繋がること意思決定になると感じた。 <p>(2) グループワークについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスを活かして今後も頑張っていこうと思った。 ・時間に限りがあり、発言できなかった人がいたことが残念だった。 <p>(3) 今年度の勉強会全体を通しての感想、次年度に向けて取り上げてほしいテーマ等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童を対象にした内容の勉強会 ・介護と障がいの関わりについて ・難しいケースについて(ケース検討) ・千歳市でなぜ移行支援が衰退するのか ・寸劇はとてもわかりやすく、別のテーマを取り上げた際もやってほしいと思った。 ・次年度も参加したい。
作 成 者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

平成 30 年度 第 1 回 こども部会 報告	
日 時	平成 30 年 4 月 26 日(木) 10:00~12:00
場 所	千歳市総合福祉センター 307 号室
参 加 者	サポートセンターエブリ(田口所長(部会長))、ライフヘルプちとせ(後藤氏)、ブンブン ブンハウス(松田所長)、ちとせ療育教室はる(石岡代表)、ラブアリス(五月女児発管)、 十彩(尾崎児発管)、みどり台(浅野氏)、千歳市社会福祉協議会(田村氏)、千歳市立北進 小中学校(黒田教諭)、北海道千歳高等支援学校(古木教諭)、こども療育課(小林係長(副 部会長))、こども家庭課(松本係長)、子育て総合支援センター(近藤主査)、障がい者支 援課(松田課長(事務局長))、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長(事 務局次長)・志鎌相談員)
要 旨	<p>1.自己紹介</p> <p>2.活動内容について</p> <p>3.情報提供</p>
会議内容	<p>1.自己紹介</p> <p>(1)新年度で初めて参加している人がいたため、改めて自己紹介を行った。</p> <p>(2)自立支援協議会について</p> <p style="padding-left: 2em;">様々な地域課題について検討しながら解決していく会である。各事業所や公募市 民に参加いただき、年 4 回定例会を開催している。こども部会は地域部会の 1 つで、 定例の部会とは別にレッツスマイル夏・冬企画や勉強会・座談会などを行っている。</p> <p>2.活動内容について</p> <p>資料の年間予定を確認し年間の活動について確認した。</p> <p>(1)レッツスマイル</p> <p style="padding-left: 2em;">夏休み冬休みの期間に例年開催している。 今年度は夏: 8 月 4 日(土)、冬: 1 月 12 日(土)の予定。 昨年度は実行委員として企画の段階から学生にも参加してもらおうとの話があっ たが、学校の都合などで難しいため、部会構成員の中から実行委員を選出し、話を 進めていく。 夏冬の目的地の候補を挙げた。(小樽鉄道記念館、千歳さけます情報館、アースド リーム、サンピアザ水族館、青少年科学館、もりもと工場見学、ボウリングなど)</p> <p>(2)座談会(情報交換会)</p> <p style="padding-left: 2em;">保護者から情報交換をする場がほしいとの声があったため開催している。 今年度は 6 月 28 日(木)10 時~12 時の予定。 昨年度は就園について、児童発達支援の利用について、支援級(校)について、放 課後の過ごし方についての 4 テーマを設定した。 児童発達支援については、通園センター等でも学習会を開催していることもあり、 昨年は希望者がいなかった。今年度はそれ以外のテーマを設定し、開催する。</p>

	<p>保護者の多くは就労に向けて、小中学校卒業後、学齢期(就学後)などについて話を聞く機会を求めている。</p> <p>(3)勉強会(わからないこと解決講座) 座談会(情報交換会)で挙げた話題やアンケートを参考に、保護者が知りたい、聞きたいと感じていることをテーマに開催している。 昨年度は児童発達支援事業所の利用について、特別支援学校・学級について分科会形式で行なっている。 「わからないこと解決講座」というタイトルでは何についてのことがわからないため、周知の方法含めて考えたら良いのではないかと意見があった。 毎年はたらく部会で行なっている市内の就労支援事業所の合同説明会の場で児童福祉事業所の相談会を併せて開催できたらどうかとの意見があった。</p> <p>(4)部会の開催について 例年どおり、毎月第3木曜日10時からの開催であるが、他の業務等の都合もあるため、部会の時間を短縮できると良いのではとの意見が多数あった。 課題共有や何か話題や回答を求められることに関しては、事前にお知らせしてもらおうと時間短縮にもなって良いのではないかと意見があった。次回以降、開催案内の出欠連絡と合わせて、事前にテーマや回答をしてもらいたいことを知らせるようにしていく。</p> <p>3.情報提供</p> <p>(1)千歳市9館合同児童館まつりが8月25日(土)北ガス文化ホールで行われる。北進中学校や千歳高等支援学校の生徒もボランティアとして参加できる。</p> <p>(2)通園センターから 5月16日(水)10時、6月12日(火)10時～千歳市総合福祉センター402号室で就学学習会が行われる。通常学級で受けられる支援、放課後に使える福祉サービスについて説明する。保護者だけでなく事業所職員も参加できる。</p> <p>(3)ぱすてるが5月1日(火)から、放課後等デイサービスと児童発達支援事業の多機能で定員10名。日中一時支援の単独型はサポートセンターエブリで不定期の人を対象に残す。</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

平成 30 年度 第 2 回 こども部会 報告	
日 時	平成 30 年 6 月 21 日(木) 10 : 00 ~ 11 : 00
場 所	千歳市東雲会館 5 号室
参 加 者	サポートセンターエブリ(田口所長(部会長))、ライフヘルプちとせ(熊谷氏)、障がい者支援事業所ゆうび(岡野氏)、ちとせ療育教室はる(石岡代表)、ラブアリス(五月女児発管)、十彩(藤田氏)、みどり台(浅野氏)、千歳市社会福祉協議会(田村氏)、北海道南幌養護学校(中川教諭)、北海道千歳高等支援学校(古木教諭)、こども療育課(小林係長(副部会長))、子育て総合支援センター(近藤主査)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長(事務局次長)・志鎌相談員)
要 旨	<p>1.全体会報告</p> <p>2.レッツスマイル夏企画について</p> <p>3.座談会進捗確認</p> <p>4.情報提供(課題共有)</p>
会議内容	<p>1.全体会報告</p> <p>(1)5月29日(火)に行なわれた自立支援協議会全体会について 各部会から活動報告・計画について報告があった。 千歳市障がい者計画・第5期千歳市障がい福祉計画・第1期千歳市障がい児福祉計画の説明があった。</p> <p>(2)こども部会について 平成29年度に実施した、情報交換会(座談会)、勉強会、レッツスマイル等の事業報告を行った。30年度については、前回の部会で配布した年間スケジュールに基づき年間活動予定を説明した。昨年度こども部会の勉強会で開催した児童の事業所説明会については、はたらく部会の合同説明会と共同で開催できれば良いと提案している。</p> <p>2.レッツスマイル夏企画について</p> <p>(1)目的地について 前回の部会で挙げた目的地の候補から、構成員の多数決で江別市のアースドリーム角山農場に決定した。日程は8月4日(土)、集合解散は千歳市総合福祉センター</p> <p>(2)役割分担について チラシ作成 こども療育課 バス手配、保険加入 千歳市社会福祉協議会 食事手配 ラブアリス 会場確保 事務局 ボランティア依頼 Chip</p> <p>(3)周知について 案内、申込用紙を各支援校、支援学級に配付する。各事業所にも配付し、通常学級在籍の児童生徒にも行き渡るようにする。</p>

	<p>3.座談会進捗確認</p> <p>(1)申込状況 現段階で2名の申込みがある。昨年申込みがあった保護者にも参加を促す。</p> <p>4.情報提供(課題共有)</p> <p>(1)7月21日(土)いずみの杜・春日で縁日を開催する。10時30分～13時30分。 (2)こども療育課から北海道通園センター連絡協議会研修会について 7月13日(金)、14日(土)北ガス文化ホールで開催する。ホームページから申込みが可能。全道から200名近く参加する。 (3)相談支援部会で開催している勉強会について 今年度1回目は7月30日(月)開催する。内容は千歳市の概要と自立支援協議会について。今年度も4回開催予定。 (4)みんなをつなげる会について 手話言語条例が制定されたことを1つのきっかけにコミュニケーションについて考えていくとなっている。各障がいの垣根を越えて皆で集まり検討や勉強会等をする。初回は千歳市の福祉制度について勉強会を開催している。 (5)児童事業所空き情報について ラブアリス 空き無。 ゆうび 火曜日以外、スタッフの人数に合わせて対応可。 ライフヘルプ 日中一時:水・木、移動支援:金 空き有。 みどり台 木・土 空き有。 療育教室はる 空き無。 ぱすてる 未就学 応相談、放課後 空き無。 エブリ 移動支援新規対応不可。不定期での日中一時は対応可。 (6)通園のセンター機能に向けての取り組みについて 昨年の児童福祉計画策定でアンケート調査を行い、今後3年間でセンター化に向けて検討を進めていくところ。現制度の児童発達支援センターに通園センターができたら良い。医師がない、園庭がないなどの課題がある。 (7)障がい児の学童クラブの利用について 障がいがあるこどもの登録は28名。普通学級在籍児童で、障がい児保育・統合保育を受けていた人は、1年次は障がい枠で手厚く支援している。 障がいがあっても、ルールを守り遊べる人は自由来館で来ている場合がある。 放課後等児童デイサービスと併用している人が増えてきている。学校終了後、学童クラブでも集団生活となることや学童クラブは自力で来館することになるため、個別の対応や送迎のある事業所を勧める場合がある。 (8)次回開催について 第3週木曜日はお盆のため、8月23日(木)10時～開催する。</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

平成 30 年度 こども部会 情報部交換会(座談会)報告	
日 時	平成 30 年 6 月 28 日(木) 10 : 00 ~ 12 : 00
場 所	千歳市東雲会館 1 号室
参 加 者	参加者 4 名 こども部会構成メンバー 7 名 合 計 11 名
要 旨	1 . テーマについて 2 . 情報交換会 3 . アンケート集計結果
会議内容	<p>1 . テーマについて</p> <p>テーマ 1 : 学齢期の悩み(学校、放課後) テーマ 2 : 小中学校卒業後の進路について テーマ 3 : 学校卒業後(就労等の進路)について</p> <p>テーマ 1 を希望する申込みが 4 名、テーマ 2 を希望する申込みが 1 名であった。当日参加者はテーマ 1 を希望していた 4 名であったため、グループ分けはせずにこども部会構成メンバー 7 名と参加者 4 名で情報交換を行なっている。</p> <p>2 . 情報交換会</p> <p>(1) 部会長挨拶 (2) 参加者自己紹介、こども部会構成メンバー自己紹介 (3) 情報交換会</p> <p>感覚過敏について 環境が変わったり、年齢を重ね様々な経験を積むことで慣れる場合もある。ただし、その子それぞれで慣れない感覚や苦手な感覚があるため、その点は配慮や工夫が必要である。</p> <p>不登校、適応指導教室、ことばの教室等について</p> <p>ア 在籍校に籍を残しておくことが可能。出席扱いになる。給食はないため弁当持参。制服着用の必要なし。</p> <p>イ えがお教室やことばの教室等、中学生になると発達支援を受けられる場所がない。放課後等児童デイサービスの利用も考えるが、親の意思ではないのか、こども自身の意思はどうかなどを考える。</p> <p>通常学級、支援級、その後の進路について</p> <p>イエローファイルの活用方法について</p> <p>親同士の交流の場、相談相手、親の気持ちのより所について</p> <p>親が行き詰まるとこどもにも影響があるため、相談できるところが 1 つでもあると良い。</p> <p>こどもと父親の関係について</p> <p>情報交換会(座談会)周知について</p>

	<p>ちゃんとで情報収集している保護者は多い。えがお教室やことばの教室などの通級指導のところにも配付すると良いかもしれない。</p> <p>(4)副部長挨拶</p> <p>3. アンケート集計結果</p> <p>(1)広報ちとせ、利用先(学校)の案内、通園センターからの案内で今回の情報交換会を知った。</p> <p>(2)定期的に情報交換の場に参加している人もいたが、はじめて参加した人もいた。</p> <p>(3)参加者のほとんどが役立つ機会になった、今後も参加したいと回答した人がいた。</p> <p>(4)聞いてみたい、興味のあるテーマとして以下の回答があった。</p> <p>支援制度について テーマは特にないが、いろいろな人のいろいろな話を聞けると良い。</p> <p>(5)都合の良い開催曜日・時間帯(複数回答) 平日午前、平日午後、平日夜、週末午前、週末午後</p> <p>(6)要望、感想等として以下の回答があった。</p> <p>経験談も聞くことができとても参考になった。 いろいろな話が聞けて大変勉強になった。またこういう機会があれば参加したい。</p> <p>今回初めて参加した。いろいろな話が聞けて良かった。 いろいろと話を聞くことができ、参加して良かった。ただ参加者の方のこどもの年齢に幅があったので、少し話しにくい雰囲気もあったかと思う。人数が多すぎたように感じたので、個人的には前年のようにテーマごと少人数(4～5人くらい)の方が良かったように思った。</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

平成 30 年度 こども部会 レッツスマイル夏企画 報告	
日 時	平成 30 年 8 月 11 日(土) 8 : 30 ~ 15 : 00
場 所	目的地 : 江別アースドリーム 集合・解散 : 千歳市総合福祉センター 移動 : 福祉バス利用
参 加 者	参加者 : 7 名(内家族 2 名) スタッフ : 11 名 ボランティア : 2 名(北海道ハイテクノロジー専門学校学生 1 名、千歳科学技術大学 1 名)
要 旨	<p>1 . 対象 千歳市在住の障がいのある就学 1 年前の幼児、小学生、中学生、高校生、その家族</p> <p>2 . 内容 千歳市総合福祉センターから福祉バスを利用して、江別アースドリームで動物とのふれあい、室内の遊具で身体を動かして過ごした。昼食は、江別河川防災ステーションに移動して弁当を食べた。</p> <p>タイムスケジュール 8 : 00 スタッフボランティア集合 8 : 30 千歳市総合福祉センター集合(9 : 00 出発) 10 : 15 江別アースドリーム到着 12 : 00 アースドリーム出発 12 : 20 昼食(江別河川防災ステーションの 2 階会議室を借りている。) 14 : 00 江別河川防災ステーション出発 15 : 00 千歳市総合福祉センター到着 随時解散</p> <p>3 . 経費 (1)収入 参加費 800 円(小学生以上) × 6 名 + 400 円(小学生未満) × 1 名 = 5,200 円 (2)支出 参加者及びボランティア弁当代 施設入館料 傷害保険 など</p>
内 容	<p>1 . 実施概要 目的地の江別アースドリームでは、多くの動物とのふれあいやエサやり、室内のドリームランドこどもの国でネットクライミングや、パークゴルフなど、担当ボランティアや家族・スタッフと楽しんで過ごした。天候は、雨の予報で心配されたが支障ない程度であった。 江別河川防災ステーションに移動し、昼食を食べた。昼食後は、施設内の展示や展望デッキ、野菜の直売所、売店等で過ごした。</p>

	<p>大きなトラブルや怪我もなく、終了した。</p> <p>2 . スタッフ、ボランティア感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者が少なかったが、ゆったりとできた。 ・参加者とスタッフの関わりがスムーズで、楽しんでもらえたと思う。 ・天候も支障ない程度で、暑すぎなくてよかった。 ・参加者のサポート情報を1年更新してくれるとありがたい。 ・事前情報もあり、安心して行うことができた。 ・とても楽しく参加することができた。 ・ボランティアの依頼の時期がもう少し早ければ参加出来た人もいた。 <p>今後の企画案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者が何か体験できる企画 ・子ども達が行きたいところ、みんなで楽しめるところ。 <p>3 . 参加者アンケート集計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達も満足していたのでよかった。 ・冬は、スノーモービル、そりすべり、犬ぞり等したい。
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

平成 30 年度 第 3 回 こども部会 報告	
日 時	平成 30 年 8 月 23 日(木) 10 : 00 ~ 11 : 20
場 所	千歳市東雲会館 5 号室
参 加 者	サポートセンターエブリ(田口所長(部会長))、ライフヘルプちとせ(後藤氏)、障がい者支援事業所ゆうび(岡野氏)、ちとせくらぶ(山口氏)、千歳市社会福祉協議会(田村氏)、北海道南幌養護学校(中川教諭)、北海道千歳高等支援学校(古木教諭)、こども療育課(小林係長(副部会長))、学校教育課(中川係長)、障がい者支援課(石黒主事)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長(事務局次長)・志鎌相談員)
要 旨	<p>1.レッツスマイル夏反省・冬企画について</p> <p>2.座談会(情報交換会)について</p> <p>3.勉強会について(日程・内容・周知など)</p> <p>4.情報提供(課題共有)</p>
会 議 内 容	<p>1.レッツスマイル夏反省・冬企画について</p> <p>(1)夏企画概要</p> <p>8月11日(土)に行った夏企画についてアンケートをもとに反省を行った。 お盆期間のため、参加者、学生ボランティア共に少ない状況ではあったが、事故なく行程どおり終了した。</p> <p>(2)夏企画反省</p> <p>反省点として以下の点が挙げられた。 福祉バスの利用希望は8月~10月に集中する。日程の候補をあらかじめ第2希望まで設定しておくが良い。お盆の時期は避ける。 サポート情報は毎年更新する。 ボランティアの依頼時期をもう少し早めにする。最終確認の案内も合わせて行う。</p> <p>(3)冬企画について</p> <p>過去の企画内容や4月の部会内で挙げられた目的地の候補(千歳さけますの森さけます情報館、もりもと工場見学、ボウリング、鉄道記念館、青少年科学館)の確認をした。次回10月の部会内で目的地を決定する。</p> <p>2.座談会(情報交換会)について</p> <p>6月28日(木)に行った情報交換会について、アンケートをもとに反省を行った。 参加者4名、スタッフ7名。3つのテーマを設け、テーマごとに情報交換を行う予定だったが、参加者が少なかったため1グループで話をした。参加者のアンケートでは、いろいろな話を聞くことができ良かったが、こどもの年齢に幅があり話しにくい雰囲気があったとの意見があった。参加したスタッフからは、日頃の家庭での悩みや不安なことについて共有できていた。</p> <p>3.勉強会について(日程・内容・周知など)</p> <p>11月頃までに開催したいと考えている。他部会との連携も考えているが、まだ調整で</p>

	<p>きていない。昨年度と一昨年度は「わからないこと解決講座」という名前で保護者向けに開催しているが、支援者に向けての勉強会を開催したこともある。</p> <p>事業所職員からは、学校内での学習面や生活面の指導や中身について、担任の先生から話を聞いただけではわからないこともあるとの意見があったため、支援者向けの学校見学会を検討する。</p> <p>4. 情報提供(課題共有)</p> <p>(1) 事業所について</p> <p>ちとせくらぶが8月から第2ちとせくらぶを開設。11月にみどり台へ移転予定。</p> <p>(2) 児童事業所空き情報について</p> <p>ちとせくらぶ 平日、土曜共に空き有。日曜日は利用者が少なかったため、第2、第4日曜日は閉園している。</p> <p>ライフヘルプ 月～金多少空き有。</p> <p>ぱすてる 緊急性ある方応相談で対応。月、金は空き無。</p> <p>今後は、部会の出欠確認の案内と共に各事業所に空き情報を記入してもらい、欠席の事業所情報についても共有できるようにする。</p> <p>(3) 通園のセンター機能に向けての取組について</p> <p>全国的にはセンター化を目指している。ただ、道内では公立の児童発達支援事業所しかない小さな市町村や地域もあるため、どのようにしていこうか検討している。</p> <p>センターとしては作れないが、道で相談支援や保育所等訪問を行なっているような多機能型の児童発達支援事業所にしている。地域支援をしっかりと行なっているなどの条件を整えば中核的にこども発達支援センターと同等に認めていくことで進めていきたいとの話があった。</p> <p>(4) 保護者支援について</p> <p>通園センター</p> <p>通園センターに通う前から、保健師や千歳市ネウボラで妊娠時から支援が始まる。出生後は赤ちゃん訪問や子育てコンシェルジュに紹介され、子育ての不安に対応している。職員から発達に関わる規則正しい生活の大切さ、就園について、福祉サービスについてのミニ学習会のほか、グループごとで茶話会を行なっている。</p> <p>ちとせくらぶ</p> <p>保護者向け企画を計画していたが、参加希望が1名のみであり実施できていない。</p> <p>ぱすてる</p> <p>普段はこどもだけの利用だが、夏と冬、年2回保護者の参観日のように療育の現場を見てもらっている。冬は、保護者の茶話会を行ない、そこで活動の様子の写真を見ながら話している。</p> <p>(5) 次回開催について</p> <p>10月18日(木)10時～開催する。</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

平成 30 年度 第 4 回 こども部会 報告	
日 時	平成 30 年 10 月 18 日(木) 10:00~11:30
場 所	千歳市総合福祉センター 307 号室
参 加 者	サポートセンターエブリ(田口所長(部会長))、障がい者支援事業所ゆうび(岡野氏)、ラブアリス(五月女児発管)、千歳市社会福祉協議会(田村氏)、北海道南幌養護学校(中川教諭)、こども療育課(小林係長(副部会長))、学校教育課(中川係長)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長(事務局次長)・志鎌相談員)
要 旨	<p>1.レッツスマイル冬企画について</p> <p>2.勉強会について</p> <p>3.情報提供(課題共有)</p>
会 議 内 容	<p>1.レッツスマイル冬企画について</p> <p>日程は1月12日(土)または1月19日(土)を予定。11月10日の福祉バス抽選終了後に空を確認し、日程を決める。企画内容は、ボウリングコースと千歳さけますの森さけます情報館見学コース。午後は福祉センターに集まり全員で昼食をとり、出前講座(マジック等)を依頼する予定。昼食は、市内の事業所への注文を検討する。</p> <p>2.勉強会について</p> <p>(1)学校見学会について</p> <p>前回の部会内で挙げた支援者向けの学校見学会を開催する。南幌養護学校は作業が午前のため10時に開始できると良い。水曜日であれば高等部の作業を見ることができるとため11月28日(水)に開催する。午前中に南幌養護学校、午後から千歳高等支援学校の見学をする。</p> <p>(2)合同説明会について</p> <p>はたらく部会主催の就労支援事業所の合同説明会が12月22日(土)北ガス文化ホール4階で開催される。例年行われており、児童の保護者も来場する。大会議室が就労支援事業所、小会議室が児童の事業所の個別相談ブースを設けられるように場所を借りている。こども部会に参加している事業所に当日参加可能か、出欠の確認をする。詳細については、各部会長と事務局とで調整してから連絡する。</p> <p>3.情報提供(課題共有)</p> <p>(1)こども家庭課</p> <p>児童虐待防止講演会「子ども虐待とトラウマケア」～トラウマインフォームドケアの視点から～</p> <p>日時：11月14日(水)13時～16時</p> <p>場所：北ガス文化ホール 中ホール</p> <p>講師：兵庫県こころのケアセンター 副センター長 亀岡 智美 氏</p> <p>市民協働事業 子育てスキルアップ講座～指導者・支援者編～</p>

「子育て維新の機中八策」～児童相談所長が考案した非暴力コミュニケーションの
具体～

第1部会 ～子育て中の保護者から子どもに関わる業務に携わる方まで～

日時：11月23日(金)10時～11時40分

場所：北ガス文化ホール 中ホール

第2部会 ～子どもに関わる業務に携わる方向け～

日時：11月23日(金)13時～17時 24日(土)、25日(日)9時～17時

場所：北ガス文化ホール 大会議室

(2)みどり台

12月1日(土)午前 保護者学習会開催 場所未定、詳細決まり次第案内する。

講師：北海道発達障害者支援センターあおいそら 片山 智博 氏

(3)ゆうび

情報提供

毎年9月にゆうびまつりを開催している。今年度は終了している。

課題共有

ア 学校内で出された宿題、ドリルなど教え方に困る

イ 高学年、中学生になってからの性に関して

ウ パニックを起こされた際の対応の仕方について

アに関して...ラブアリス:学校と指導を統一するため担任の先生に話を伺っている。

計算する際に指を使って指導したところパニックになっ
たこどもがいた。担任に聞くと道具を使って計算してい
たことがわかった。

ぱすてる：保護者、担任の先生に聞く。多くはないが、先生に来てい
ただく場合もある。

南幌養護学校:学校に出向かれ児童生徒の様子を見に来ることがある。

イ、ウに関しては、次回以降に検討する。

(4)南幌養護学校

11月10日(土)に学校祭が開催される。9時半から小学部・中学部のステージ発表、
11時半ごろから、高等部が作業で作ったものの販売がある。

(5)千歳市社会福祉協議会

11月4日(日)に千歳市社会福祉協議会2階でバリアフリーネットワーク会議の理
事長による講演がある。札幌のユニバーサル観光協会に直接申込み。

(6)児童事業所空き情報について

ゆうび 日中一時：月～金空き有。移動支援：月水木応相談。

	<p>みどり台 児童発達、放課後等デイサービス共に金土空き有。 ライフヘルプ 日中一時：月水木土空き有。移動支援：月火金土空き有。 ラブアリス 12月中旬に2号店が桜木にオープンする予定。現在のところから徒歩で行くことができる距離にある。</p> <p>(7)通園センター 10月23日(火)支援者向けの研修会として専門職員実践講座が北ガス文化ホールで行われる。</p> <p>(8)地震時・後の対応について Chip: 電話で安否確認を行った。連絡がつかない場合は訪問したケースがあった。次の日には電気が復旧しており、通常どおり業務がこなせる状態であったため一般相談があった。電気が確保できる情報を伝える役割分担等も考える必要がある。避難所の情報は障がい者支援課から連絡をもらい、土日も待機していた。法人全体で今後どのような対応が必要か検討していく。 通園センター：木金曜日は閉所。当日通園の利用予定だった人、肢体不自由の人、医療的ケアが必要な人を優先に電話連絡した。障がいの重いこどもの保護者からは、避難所に行って対応可能なのか不安との声があった。 ラブアリス：木～日曜まで閉鎖。携帯で連絡を取っている。地震後のこどもの様子として、自宅ではさみを持ち布団カバーを切ったという話があったと聞いている。 南幌養護学校：木金曜日は休校。寄宿舍利用の児童生徒に関しては、帰省をお願いした。仕事に行かなければならない保護者から、放課後等デイサービスの事業所もお休みのため本人の居場所がなく、困るとの声があった。 ぱすてる：木金曜日は閉鎖。月曜日から開始している。保護者には携帯の充電を考慮して、ショートメールで連絡を取った。</p> <p>(9)次回開催について 12月20日(木)10時～開催する。</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

平成 30 年度 第 5 回 こども部会 報告	
日 時	平成 30 年 12 月 20 日(木) 10:00~11:00
場 所	千歳市総合福祉センター 307 号室
参 加 者	サポートセンターエブリ(田口所長(部会長))、ライフヘルプちとせ(熊谷氏)、ちとせ療育教室はる(石岡氏)、児童デイサービス十彩(藤田氏)、児童デイサービスみどり台(浅野氏)、千歳市社会福祉協議会(田村氏)、北海道南幌養護学校(中川教諭)、こども療育課(新谷課長)、障がい者支援課(石黒氏)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長(事務局次長)・志鎌相談員)
要 旨	<p>1.勉強会(学校見学会)について</p> <p>2.合同説明会について</p> <p>3.レッツスマイル冬企画</p> <p>4.情報提供(課題共有)</p>
会 議 内 容	<p>1.勉強会(学校見学会)について</p> <p>11月28日(水)開催した、支援者向け勉強会(学校見学会)について参加者から感想を聞いている。福祉バスを利用し、午前北海道南幌養護学校、午後千歳高等支援学校の見学を行なっている。24名参加している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・午前午後参加したかったが、時間の制約もありむずかしかった。 ・午前午後交代で参加し、職員間でそれぞれの学校の様子などフィードバックすることができた。 ・就学に向けての動きなど知ることができて勉強になった。 ・以前関わっていたこどもや、寄宿舎を見ることができた。 ・またこのような機会があれば参加したい。 ・個別での対応も可能とのことで、学校への相談の敷居が低くなった。 ・移動時間や見学の時間設定など、より詳細に検討していく。 <p>等の意見・感想が出ている。</p> <p>2.合同説明会について</p> <p>12月22日(土)開催の合同説明会について当日の動きを確認している。10時に集合し会場設営、開催時間は11時~15時。事業所個別相談は、北ガス文化ホール4階小会議室1で行なう。当日は8事業所が参加、小会議室2は待ち合いの部屋としてパンフレット・掲示物を設置。昨年度「わからないこと解決講座」の際に使用した、事業所紹介のデータをモニターで映写する。</p> <p>3.レッツスマイル冬企画</p> <p>1月12日(土)開催の進捗確認をしている。午前中はボウリングと千歳市さけますの森さけます情報館見学の2コースに分かれる。午後からは福祉センターに戻り、昼食後にマジックを見る。チラシの配布は終了している。当日スタッフは9時に福祉センター集合。9時半から参加者の受付開始、移動は福祉バス1号車を利用する。</p>

ボランティアは、市内と近隣の高校・専門学校・大学に依頼中。構成メンバーのスタッフとしての当日参加については、改めてメール等で確認する。今後の動きとして、1月8日(火)、9日(水)10時からマッチング会議、最終確認会議を行なう。会議終了後、参加者に最終案内を送付する。

4. 情報提供(課題共有)

(1) 事業所空き情報について

ゆうび 日中一時：月～土空き有。移動支援：月水空き有。火木金土応相談。

ライフヘルプ 日中一時：月火水木空き有。移動支援：月火木金空き有。水士日は応相談。

エブリ 日中一時、移動支援共に空き無。

ぱすてる 児童発達：月～金空き有。放課後デイ：月～木空き有。送迎は応相談。

はる 児童発達：月～金午前空き有、午後応相談。放課後デイ：月～金応相談。

みどり台 児童発達、放課後デイ共に金土空き有。

ラブアリス 児童発達、放課後デイ共に金空き有。1月21日(月)別館オープン。

(2) 情報提供

みどり台 12月26日(水)青少年会館でNPO 法人日本ムーブメント療育協会北海道支部 森正人氏によるムーブメント療育の講演が行われる。

こども家庭課 3月1日(金)～3日(日)北ガス文化ホールで指導者・支援者向けの子育てスキルアップ講座が行われる。案内チラシを合わせて配付している。

(3) 課題

市外、道外からの転入後についての相談が増加している。どのような事業所があるのかや学童利用も検討している方がいる。

不登校気味の児童・生徒が増加している。

児童の短期入所施設、重症心身障がいの方や医療ケアが必要な方の受け入れ施設について。

高等支援学校、高等養護学校の進路選定について。

(3) 次回開催について

2月21日(木)10時～開催する。

作成者 千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

平成 30 年度 こども部会 レッツスマイル冬企画 報告	
日 時	平成 31 年 1 月 12 日 (土) 9 : 30 ~ 14 : 30
場 所	目的地 : フジボウル 千歳さけますの森さけます情報館 集合・解散 : 千歳市総合福祉センター 移動 : 福祉バス利用
参 加 者	参加者 : 22 名 (内家族 8 名) スタッフ : 10 名 ボランティア : 8 名 (北海道ハイテクノロジー専門学校学生 4 名、千歳科学技術大学 1 名、千歳北陽高等学校 3 名) 参加者・スタッフ・ボランティア合計 : 40 名
要 旨	1 . 対象 千歳市在住の障がいのある就学 1 年前の幼児、小学生、中学生、高校生、その家族でサポート情報の提供の同意をしていただけの方 (家族の参加は任意、本人のみ参加可能) 2 . 内容 午前は、ボウリングコースとさけます情報館見学コースに分かれそれぞれで活動している。午後は、千歳市総合福祉センターで昼食を取りマジックショーを観る。 移動は千歳市総合福祉センターから福祉バスを利用して、それぞれの目的地に向かっている。
会議内容	1 . 実施概要 午前は 2 コースに分かれて活動している。集合は千歳市総合福祉センターで、福祉バスを利用してそれぞれの目的地に向かっている。ボウリングは、4 レーン利用しスタッフとボランティア配置のもとそれぞれで楽しんでいる。ストライクやスペアが出れば、参加者に 1 人 1 個景品を渡している。さけます情報館は館内のスタッフからミニ講座を聞き、見学を行なっている。施設パンフレットや、小冊子等もいただいた。少人数の参加であり、エサやりや放流の体験も全員行うことができている。 千歳市総合福祉センター 402 号室で昼食を食べ、午後はマジックショーを見て楽しんでいる。参加者に声をかけて頂き、実際に行なう場面もあった。終了後にお礼として、エコファクトリーで販売している珈琲セットを贈っている。マジックの終了時間が予定より早かったが、大きなトラブルや怪我もなく、終了している。 2 . スタッフ、ボランティア感想 (1) 運営や企画、参加されての感想 ・ こども達も楽しく参加できているように見えたので良い企画だったと思う。 ・ また機会があれば参加したい。 ・ ボランティアと参加者のマッチングもスムーズでとても楽しかった。 ・ こども達と色々な話しや体験ができて良かった。 ・ 企画を 1 つのみにするのではなく、2 つにすることでこどものやりたいことが行え

	<p>るので良いと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボウリングがとても楽しく、こどもとコミュニケーションが取れた。 ・さけます情報館は小集団だったこともあり、各自楽しむことができた。 ・マジックが楽しかった。 ・マジック終了後だるまさんがころんだやかくれんぼが楽しかった。 ・どのように対応していいか戸惑うこともあったが、サポートしてもらい何とかあった。 <p>(2)今後の企画案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもが皆で体を動かせる遊びなどあると良いと思う。(おにごっこ等) ・全員参加のレクリエーション ・運動系も良いが、歌も良いのでカラオケ等。 <p>(3)企画委員として参加可能かどうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加しても良い(興味がある)... 4名 ・むずかしい... 7名 <p>3. 参加者アンケート集計</p> <p>(1)今回の企画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボウリングが楽しかった。 ・体を動かせて良かった。 ・こどもも楽しんでいて良かった。また参加させたい。 ・時間帯も丁度良く、お昼もお弁当が注文できて助かった。 ・ボランティアの方が一人ずつお世話してくれてとても助かった。 <p>(2)次回の企画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バッティングセンター ・防災センター ・雪遊び ・カラオケ ・ボウリング ・体育館でボール遊び、ドッチボール ・おにごっこ <p>(3)サポート情報について</p> <p>書く情報量が「丁度良い」との回答が6名。「多い」が2名いるが、必要なことなので書くとの回答がある。</p> <p>(4)この企画を知ったきっかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校からの案内配付 ・児童発達、放課後等デイサービス事業所 ・友達
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

平成 30 年度 第 6 回 こども部会 報告	
日 時	平成 31 年 2 月 21 日(木) 10 : 00 ~ 11 : 30
場 所	千歳市総合福祉センター 310-2 号室
参 加 者	ブン・ブン・ブン・ハウス(松田氏)、障がい者支援事業所ゆうび(岡野氏)、ちとせ療育教室はる(石岡氏)、ラブアリス千歳桜木(五月女氏)、児童デイサービス十彩(藤田氏)、児童デイサービスみどり台(浅野氏)、北海道南幌養護学校(中川教諭)、北海道千歳高等支援学校(古木氏)、こども療育課(小林係長(副部会長))、障がい者支援課(石黒氏)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長(事務局次長)・志鎌相談員)
要 旨	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定例会報告 2. 合同説明会反省 3. レッツスマイル冬企画反省 4. 年度まとめ 5. 情報提供(課題共有)
会 議 内 容	<p>1. 定例会報告</p> <p>2月19日(火)に開催された自立支援協議会定例会について、議題は各部会からの報告と地域生活支援拠点等についての2点であった。</p> <p>第5期障害福祉計画において、地域生活支援拠点等について平成32年度末までに各市町村又は各圏域に少なくとも1つの拠点等を整備することが目標とされている。緊急時の対応策、地域生活に向けての体験事業など、地域全体で支援する体制を構築するという内容。</p> <p>多機能拠点整備型と面的整備型があるが、千歳市では面的整備型を基本に取り組んでいく。今後相談支援部会を中心に検討を進めていくこととしている。</p> <p>2. 合同説明会反省</p> <p>12月22日(土)開催された合同説明会について振り返りを行なっている。</p> <p>はたらく部会の振り返りで、当日来場者が少ない印象ではあったが実数として昨年度から20名減程度であることを確認している。今年度は就労継続支援事業所の物販も行ない、来場者が拡散され混雑感が昨年度よりなかったことも考えられる。</p> <p>会場の都合もあり、日程が12月末3連休初日で遅めの開催だったため12月上旬に開催できれば良いとの意見がでた。</p> <p>児童の事業所相談で、当日参加した部会メンバーから感想等が以下の様に出た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数名の来場者であったため、ゆっくり話をすることができた。 ・他事業所の方との情報共有の場になり、来場者だけでなく職員にとっても良い機会だった。 ・就労継続支援事業所がいることで、働くということに関しても興味を持つことができたのではないかと。 ・後日事業所見学に来てくれた方もいて1つのきっかけになった。 ・託児があると尚良い。

3. レッツスマイル冬企画反省

1月12日(土)開催したレッツスマイル冬企画についてアンケートを基に振り返りを行なっている。

- ・企画を1つにするのではなく、ボウリングかさけます情報館の見学コースを選択できることでこどものやりたいことが行えるので良かった。
- ・ボウリングが久しぶりで楽しかった。
- ・マジックショーが予定していた時間より早く終わったため、その時間で何かできれば良かったのではないかと。
- ・こどもは体を動かすことが好きだと思うので、今後体を動かせる遊びの企画も良いのではないかと。
- ・参加者のアンケートでは全員から楽しかったとの回答をもらっている。
- ・季節的に雪遊びができたら良い。
- ・保護者から時間帯も丁度良く、昼食もお弁当を注文でき助かった。ボランティアの方がこども一人ずつお世話をしてくれて助かり親子共々楽しめた。

当日参加した部会メンバーから感想等聞いている。

- ・ボランティアがなかなか集まらなかった。人員確保が今後の課題。
- ・さけます情報館は体験が充実していて、気に入ったブースでそれぞれ楽しむことができた。
- ・保護者の参加も多く、親子で楽しむことができた。
- ・ボウリングは2レーンにまとまりこどもがいることで支援しやすかった。
- ・こどもも大人も楽しめた。

4. 年度まとめ

(1) 部会開催時間について

これまで同様に平日午前中、決められた曜日、時間で参加可能、18時半以降が参加可能との意見が挙げられた。

(2) 1年間全体を通して

- ・事業所のイベントで市内の施設等はある程度行ったことがある。レッツスマイルの企画でどのようなところがあるのか市外の情報も得られると良い。
- ・今後も可能な限り参加していきたい。
- ・学校見学会は情報を得られ、職員のスキルアップという点でも良い機会だった。
- ・学校見学会等勉強会があれば、今年度参加できなかった職員にも参加してもらいたい。
- ・レッツスマイルに参加した利用者が、事業所でお土産話をしてくれた。
- ・学校見学会の際に、生徒が以前お世話になった事業所の職員に会うことができ、喜んでいて。双方に良い機会になっていた。

	<p>5. 情報提供(課題共有)</p> <p>(1) 事業所空き情報について</p> <p>ゆうび 日中一時：月～土空き有。移動支援：月～土空き有。</p> <p>ライフヘルプ 日中一時：月火水木空き有。移動支援：火木金空き有。月日は応相談。</p> <p>エブリ 日中一時：月～金応相談。移動支援：空き無。</p> <p>ぱすてる 児童発達：月～金空き有。放課後デイ：月～木空き有。金応相談。</p> <p>ラブアリス 児童発達、放課後デイ共に金空き有。</p> <p>ラブアリス別館 児童発達、放課後デイ共に月～金空き有。</p> <p>ブン・ブン・ブン・ハウス 児童発達：月～金空き有。 放課後デイ：月～木、土応相談。(中高生対象) 水～土、応相談。(小中学生対象)</p> <p>(2) 新年度、就学や進学に伴う事業所利用中児童生徒の入れ替えについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進級はあるが、大きな変更なく継続して利用される。 ・中学、高校進学が3名程いる。 ・中学、高校進学に伴い卒業の方もいる。平日利用の方が若干減るため、日中一時や移動支援で希望があれば対応可能。 ・就学のこどもが数名いて、利用日数を増やしている。 ・中学に進学するこどもは平日利用が時間的に厳しくなり、土曜日課に参加意向を確認している。 <p>(3) 卒業式について</p> <p>南幌養護学校高等部 3月8日(金)</p> <p>南幌養護学校小・中学部 3月15日(金)</p> <p>千歳高等支援学校 3月2日(土)</p> <p>(3) 次回開催について</p> <p>新年度第1回目の部会については、第3木曜日開催予定。</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

平成 30 年度 第 1 回 はたらく部会 報告	
日 時	平成 30 年 5 月 18 日(金) 18:00~19:00
場 所	東雲会館 1 号室
参 加 者	35 名 帆の風(藤岡)、Om-net(牧野)、物流センター(木村・佐々木)、ピアハーブ(猿山)、青葉の杜(田本)、蓮げ荘(森本)、デイケアひかり(尾崎・橋本)、千歳公共職業安定所(酒井)、メビウス(加藤)、ほほえみ(藤本)、ワンステップ(眞鍋)、晴レルモキッチン(米澤)、千歳高等支援学校(内山・神上)、千歳地域生活支援センター(渡邊)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山・中土井・中村)、サークルエイト(青木・木村)、ひまわりの会(稲船)、ウインドバレー(千葉)、いずみワークセンター(今野・上野) ユリーカ(芦田)、こぶしくリニック(松田)、千歳市障がい者支援課(松田課長・佐藤係長)石狩障がい者・生活支援センターのいける(千葉・菅原)、就労推進室やませみ(佐藤・田所・下川部)
要 旨	<p>1. 報告事項</p> <p>(1) 視察研修について</p> <p>(2) 企業セミナーについて</p> <p>(3) 今後のはたらく部会の活動について</p> <p>2. その他連絡事項</p>
内 容	<p>1. 報告事項</p> <p>(1) 視察研修について 今年度の視察研修は、札幌みなみの杜高等支援学校と北海道リハビリ に決まりました。日時は7月4日(水)</p> <p>(2) 企業セミナーについて 一般企業への啓発活動の一環のためはたらく部会での開催ではなく、やませみの事業として開催していきたい旨話し合い、賛同を得た。</p> <p>(3) 今後のはたらく部会の活動について より活発に部会活動をしていくうえで今後どのように活動をしていくかの話し合いを行った。「外部から講師をお願いして講演していただくのはどうか」、「近隣の事業所で千歳にはない作業を行っている所に視察に行くのはどうか」、「報酬改定の話をもっと具体的に教えてほしい」など意見があがりました。</p> <p>2. その他連絡事項</p> <p>なし</p>
作 成 者	就労推進室 やませみ 佐藤 靖子

平成 30 年度 はたらく部会視察研修 報告	
日 時	平成 30 年 7 月 4 日(水) 8:20~17:00
集合解散	千歳市総合福祉センター
参加者	20 名 ユリーカ(芦田)、ウィンドバレー(千葉)、デイケアぽぷら(葛西)、千歳地域生活支援センター(三浦)、ピアハープ(野本)、帆の風(藤岡)、Om-net(橋本)、ゆみな(畑中・藤原)、青葉の杜(田本)、千歳物流センター(木村)、千歳市障がい者総合支援センター-Chip(中土井・中村)、石狩障がい者就業・生活支援センターのいける(里見・菅原・山口)、千歳市障がい者支援課(松田課長(事務局長)・佐藤係長(事務局次長))、就労推進室やませみ(佐藤・下川部)
視 察 先	<p>1. 札幌みなみの杜高等支援学校</p> <p>2. 北海道リハビリー おおぞら(クリーニング) エイト(印刷業)</p>
内 容	<p>1. 札幌みなみの杜高等支援学校 開校 2 年目の支援学校であり、学校の目標は「自分らしく生き生きと社会の中で活躍する生徒を育てる」ことである。 働く力を育てるためにカフェの運営、ファーム、工房、クリーンアップ、エコサイクルなど学校での実習に力を入れている。</p> <p>2. 北海道リハビリー おおぞら 昭和 53 年に開設し、A 型・B 型・就労移行の利用者 97 名が病院・施設などの寝具、タオル、おむつ、白衣のクリーニングを利用者それぞれの能力に合わせてこなしてもらっている。</p> <p>エイト 昭和 43 年に開設し、生活介護、B 型、就労移行の利用者 80 名が印刷作業、入力作業、紙折り、封詰め作業などを行っている。 社会生活に必要なあいさつや報告・連絡・相談、健康管理など、基本的なことが身に付くよう、注意・助言を行うとともに、個人の生活や体調などに合わせた支援を行っている。</p>
作 成 者	就労推進室やませみ 佐藤 靖子

平成 30 年度 第 2 回 はたらく部会 報告	
日 時	平成 30 年 7 月 20 日(金) 18 : 00 ~ 19 : 00
場 所	東雲会館 1 号室
参 加 者	19 名 Om-net(牧野)、物流センター(佐々木)、ピアハープ(猿山・山下)、蓮げ荘(森本)、デイケアひかり(今本・橋場)、メビウス(加藤)、デイケアぽぷら(葛西)、千歳地域生活支援センター(渡邊)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山・中村)、サークルエイト(青木)、ウィンドバレー(千葉・岩崎)、こぶしクリニック(松田)、千歳市障がい者支援課(佐藤係長)、就労推進室やませみ(佐藤・下川部)
要 旨	<p>1 . 報告事項</p> <p>(1)第 1 回部会でのグループワーク結果報告</p> <p>(2)事業所紹介</p> <p>2 . その他連絡事項</p>
内 容	<p>1 . 報告事項</p> <p>(1)第 1 回部会でのグループワーク結果報告 各グループでどのような話が挙げられたか報告を行った。 「グループワークの中で一人ずつ支援の成功談や失敗談、疑問に思っていることなどを話し合っではどうか」、「不登校や昼すぎから登校する生徒があり、そういった生徒の就労はどのように行っていけばよいか」、「視察研修は市外だけでなく市内でも実施してはどうか」などが挙げられたが、中でも「自立支援協議会とはたらく部会、就労推進室やませみの関係がわかりにくい」との話が挙げられていたため、障がい者支援課から説明があった。</p> <p>(2)事業所紹介 各事業所から開所時間、休日、定員人数、空き人数、送迎の有無など事業所の概要の説明をしていただき作品などを見せていただいた。</p> <p>2 . その他連絡事項 なし</p>
作 成 者	就労推進室 やませみ 佐藤 靖子

平成 30 年度 第 3 回 はたらく部会 報告	
日 時	平成 30 年 9 月 28 日(金) 18:00~19:00
場 所	東雲会館 1 号室
参 加 者	27 名 石狩障がい者・生活支援センターのいける(千葉・菅原)、ユリーカ(芦田)、スリーピース(仁木)、オルポノ(佐藤)、青葉の杜(田本)、ミナモト(今井)、いずみワークセンター(今野)、ひまわりの会(稲船)、晴レルモキッチン(米澤)、Om-net(牧野)、物流センター(木村)、ピアハーブ(猿山)、蓮げ荘(森本)、ワンステップ(眞鍋)、デイケアひかり(橋場・澁谷)、ハローワーク(酒井)、千歳地域生活支援センター(福澤)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山・中村)、サークルエイト(青木)、ウィンドバレー(千葉)、こぶしくリニック(松田)、就労推進室やませみ(佐藤・田所・下川部)
要 旨	1. 報告事項 (1)障がい福祉サービス等報酬改定について (2)合同説明会 (3)事業所紹介
内 容	1. 報告事項 (1)障がい福祉サービスの報酬改定について 石狩障がい者就業・生活支援センターのいける 千葉 氏から詳細を説明していただいた。 < 質疑応答 > Q. 高等支援学校で独自にアセスメントを行っている所はあるか。 A. 小樽市では事例がある。 (2)合同説明会について 12 月 22 日(土)に北ガス文化ホールで開催することと昨年のアンケート結果にあったとおり児童福祉事業所や共同生活援助事業所にも参加してもらえよう今後調整する旨報告した。 (3)事業所紹介 平成 30 年 4 月から開設した就労継続支援 A 型事業所 株式会社ミナモトからあいさつと事業所の紹介があった。
作 成 者	就労推進室 やませみ 佐藤 靖子

平成 30 年度 第 4 回 はたらく部会 報告	
日 時	平成 30 年 11 月 16 日(金) 18:00~19:00
場 所	東雲会館 1号室
参 加 者	27名 メビウス(加藤)、ゆうび(寺島)、エコファクトリー(結城)、千歳高等支援学校(内山) 帆の風(藤岡)、石狩障がい者・生活支援センターのいける(菅原)、オルポノ(佐藤)、青葉の杜(田本)、いずみワークセンター(今野)、ひまわりの会(上田)、晴レルモキッチン(米澤・福田)、Om-net(牧野・橋本)、千歳物流センター(佐々木)、ピアハーブ(山下)、蓮げ荘(森本)、デイケアひかり(澁谷)、ハローワーク(酒井)、千歳地域生活支援センター(渡辺)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山・中村)、サークルエイト(青木)、ウィンドバレー(千葉)、こぶしくリニック(松田)、就労推進室やませみ(佐藤・下川部)
要 旨	<p>1. 報告事項</p> <p>(1) 利用者が就労を休まず継続していけるよう取組む提案</p> <p>(2) 合同説明会について</p> <p>2. その他連絡事項</p>
内 容	<p>1. 報告事項</p> <p>(1) 利用者が就労を休まず継続していけるように取組む提案 ～就労を継続していくための独自見解～ エコファクトリー 結城 様からエコファクトリーで取り組んでいる、仕事の仕組みやルールなどを説明いただいた。</p> <p>(2) 合同説明会について タイムスケジュール、会場配置図、事業所リスト名簿配布、一日の流れの確認</p> <p>2. その他連絡事項</p> <p>なし</p>
作 成 者	就労推進室 やませみ 佐藤 靖子

平成 30 年度 千歳市障がい福祉就労事業所合同説明会 報告	
日 時	平成 30 年 12 月 22 日(土) 11:00~15:00
場 所	北ガス文化ホール(千歳市民文化センター)
参 加 者	<p>65 名</p> <p>帆の風(藤岡・小林・大谷・高橋・阿部)、Om-net(牧野・橋本)、ウィンドバレー(千葉・山端・岩崎・八木・押木・今井・山本)、いずみワークセンター(今野)、物流センター(木村・佐々木・中村)、ピアハープ(猿山)、サークルエイト(青木・畠山・柳井・金澤)、デイケアひかり(澁谷)、リワークデイケア(菊池・川田)、晴レルモキッチン(米澤・米澤・川口・園田・福田)、ミナモト(今井・鳴海)、千歳公共職業安定所(酒井)、ひまわりの会(稲船・村田・三上・佐藤)、メビウス(加藤)、エコファクトリー(結城・平本・石川)、ユリーカ(芦田・吉村・有村)、青葉の杜(田本)、オルポノ(有田・有田・佐藤)、蓮げ荘・CafeLeaf(森本・相澤)、ワンステップ(眞鍋)、千歳こぶしクリニック(松田)、ゆうび(山崎・藏田)、ゆみな(畑中・菊池)、千歳地域生活支援センター(渡邊・福澤)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長(事務局次長)・中土井・志鎌)、障がい者支援課(佐藤係長(事務局次長))、就労推進室やませみ(佐藤・下川部)</p>
開 催 内 容	<p>1. 開場時間 11:00~15:00</p> <p>2. 開催場所 北ガス文化ホール(市民文化センター)</p> <p>2. 来場者数 合計 120 名</p> <p style="padding-left: 2em;">保護者・本人・一般 55 名</p> <p style="padding-left: 2em;">関係者・事業所 65 名</p> <p>3. 結果概要</p> <p>(1) 来場者数が昨年度から 23 名減になった。</p> <p style="padding-left: 2em;">原因として 3 連休の初日だということと、年末だったためだと思われる。</p> <p style="padding-left: 2em;">来年度は、年末ではなく昨年度同様 12 月初旬に開催したい。</p> <p>(2) アンケートでは、千歳市の事業所が一同に集まっていて一つ一つの事業所の話が詳しく聞けるので、行って良かったと思ったという意見があった。</p> <p style="padding-left: 2em;">また、アンケートの中で多かった意見は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな就労支援の仕組みを聞いてよかった ・就労支援について理解を深められた。 ・それぞれの事業所のスピーチがあればよかった。 ・今後もこのような説明会を開催してほしい。
作 成 者	就労推進室 やませみ 佐藤 靖子

平成 30 年度 第 5 回 はたらく部会 報告	
日 時	平成 31 年 2 月 8 日(金) 18 : 00 ~ 19 : 00
場 所	東雲会館 1 号室
参 加 者	22 名 千歳高等支援学校(斎藤)、帆の風(藤岡)、オルポノ(有田)、青葉の杜(田本)、いずみワークセンター(今野)、晴レルモキッチン(米澤)、Om-net(牧野)、千歳物流センター(佐々木)、ピアハーブ(猿山)、千歳病院リワークデイケア(菊池、佐藤、河田、橋場)、千歳地域生活支援センター(渡辺)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山・中村)、サークルエイト(青木)、ウィンドバレー(千葉)、ワンステップ(眞鍋)、ユリーカ(芦田)、就労推進室やませみ(佐藤・下川部)
要 旨	<p>1 . 報告事項</p> <p>(1) 合同説明会の結果報告</p> <p>(2) やませみパンフレット紹介</p> <p>(3) ケーススタディー</p> <p>(4) 障がい者雇用講演会のお知らせ</p> <p>2 . その他連絡事項</p> <p>(1) 施設外就労の情報提供</p>
内 容	<p>1 . 報告事項</p> <p>(1) 合同説明会の結果報告</p> <p>平成 26 年度から 30 年度までの実地場所や時間などを表にまとめ来年度の開催について話し合った。</p> <p>来年度は 12 月初旬に開催したほうが良いという結論に至った。</p> <p>アンケート結果報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般の会社もあればいいなと思いました。 ・それぞれ事業所のスピーチがあったらいいなと思いました。 ・色々な事業所の話が聞けるので良かったです。など <p>(2) やませみパンフレット紹介</p> <p>今までのパンフレットを一新したので配布し説明を行った。</p> <p>(3) ケーススタディー</p> <p>就労支援の課題、支援の失敗談や成功談、職員のストレスケア方法、来年度の部会の取り組みについてグループワーク方式で話し合った。</p> <p>(4) 障がい者雇用講演会のお知らせ</p> <p>平成 31 年 2 月 15 日(金) 13 時半より北ガス文化ホールで生活協同組合コープさっぽろの奈良岡様を講師に「障がい者雇用管理と課題対処事例」の講演会を行う。</p> <p>2 . その他連絡事項</p> <p>施設外就労の情報提供を行った。</p>
作 成 者	就労推進室 やませみ 佐藤 靖子

平成 30 年度 第 1 回 地域生活部会 報告	
日 時	平成 30 年 11 月 27 日 13 : 30 ~
場 所	めいぷりサロンしろっぷ(千歳市自由ヶ丘 6 - 5 - 8)
参 加 者	千歳市肢体不自由児者父母の会(岡田会長(部会長))、支援センターゆみな(清水所長)、千歳つくし会(愛澤会長)、千歳地域生活支援センター(奥貴センター長)、千歳市障がい者支援課(佐藤係長(事務局次長))、千歳市障がい者総合支援センター(横山センター長(事務局次長))
要 旨	<p>1 . 今年度の活動について</p> <p>2 . 情報共有(今年度の地域で生活している人の情報)</p> <p>3 . その他</p>
会議内容	<p>1 . 今年度の活動について</p> <p>前年度の部会で提案された話題(課題)として挙がっていたことを確認した。</p> <p>(1)地域課題の掘り起し</p> <p>(2)在宅(支援)の課題(存在把握のできていない方への支援)</p> <p>(3)気軽に相談できる場所の確保</p> <p>上記を踏まえて、今年度は地域の人が気軽に相談できる場の確保について検討する。</p> <p>2 . 情報共有(今年度の地域で生活されている皆さんの情報)</p> <p>具体的な活動を検討するにあたり、各メンバーから地域の近況について意見交換を行った。地震時の対応やその後の対応についての話のほか、障がい種別に偏りなく、適正な支援を受けずに生活されている方や家族の高齢化で対応が厳しくなっている方の話があった。</p> <p>表出できない悩みを抱えた方に気軽に相談して頂く為には、多くの地域の情報を集めていく必要があるとの意見をまとめ、地域の状況を知る民生委員や生活支援の事業所から意見を聞く機会を今後の部会で持つ事になった。</p> <p>3 . その他</p> <p>次回の開催</p> <p>2月上旬を予定</p>
作 成 者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

平成 30 年度 第 1 回 進路連絡会議 報告	
日 時	平成 30 年 7 月 31 日(木) 13:30 ~ 15:30
場 所	千歳市総合福祉センター 402 号室
参 加 者	千歳市内事業所(18 名) 養護学校・高等養護学校(14 名) 事務局(3 名) 参加者合計 38 名
要 旨	<p>1.平成 29 年度卒業生の進路動向について</p> <p>2.就労アセスメントについて</p> <p>3.在校生の進路希望動向について</p> <p>4.情報交換会</p>
会議内容	<p>1.平成 29 年度 卒業生の進路動向について</p> <p>各学校(8 校)から平成 29 年度卒業生の進路動向について報告があった。 卒業生 26 名中 13 名は、福祉事業所を利用している。 4 名中 2 名が在学中に就労アセスメントを行い B 型利用、1 名は卒業を待ってから 就労アセスメントを行い B 型利用、1 名は就労移行支援を利用することになった。</p> <p>2.就労アセスメントについて</p> <p>障がい者支援課から、来春卒業予定者の就労継続支援 B 型事業所利用に係る取扱いに ついて報告があった。 昨年度と同様に就労移行支援事業所によるアセスメントが必要であり、実施に当たっ ては、在学中にサービス等利用計画を相談支援事業所で作成する必要がある。 室蘭市では学校の職場実習の際のアセスメント情報を就労アセスメントとして利用 しているとの情報があったが、千歳市では従来の就労アセスメントを継続していく方針 であると障がい者支援課から説明があった。</p> <p>3.在校生の進路希望動向について</p> <p>各学校(9 校)から在校生の進路希望の報告があった。 高校 3 年生 25 名中 12 名が福祉事業所への通所を希望している。(一般就労 11 名、進学 1 名、未定 1 名) 高校 2 年生 25 名、1 年生 18 名(報告のあった生徒の数のみ記載)の進路希望先は未定者 が多い。 平成 30 年度の就労アセスメント対象者は 2 名。</p> <p>4.情報交換会</p> <p>住まい・一般就労・福祉就労、直 B の 3 つのテーマに分かれて実施した。 (1)住まいについて 学校・生活介護事業所・就労継続支援 B 型事業所・グループホーム・相談支援事業 所のそれぞれの立場から意見・課題等を聞いた。</p>

	<p>グループホームに若干の空きはあるが空きが少ない状況が依然として続いており、将来的な住まいの確保やその後の収入等には課題があることを共有した。</p> <p>事業所からは本人のニーズに対して柔軟に考え新たなサービス提供によってニーズを解消していくことを検討したいとの前向きな意向もあり、住まいの確保についてインフォーマルな支援を開拓できないものかとの意見もあった。</p> <p>(2)一般就労について</p> <p>学校・就労継続支援A型・B型事業所・就労推進室のそれぞれの立場から意見を聞いた。</p> <p>単純な作業能力とは別に、社会人としての基本的なマナーを在学中に身につけられていることが重要で、時間を守れないことが課題にあがった。</p> <p>また、実際の就労場面と実習場面では差異がある事を理解してもらう必要がある。</p> <p>将来的な一般就労を目指して福祉就労をしているケースについて、サービス利用期間が長くなるにつれて現状で満足してしまう傾向も多く見られるので、当初の目標達成の為に積極的に行動してほしいとの企業の意見もあるとのことであった。</p> <p>(3)福祉就労について</p> <p>学校・生活介護事業所・就労継続支援A型・B型事業所・相談支援事業所のそれぞれの立場から意見を聞いた。</p> <p>就労アセスメントで実習の結果が利用できれば学校としては楽だが、もし将来的にそのようなことを考えた場合詳細に中身をすり合わせなければならない。また就労アセスメントは就労能力のみを見ている訳ではなく、生活能力込みで調査している点も考慮しなければならない。</p> <p>障がいが重度の方や重複している方の場合、就労アセスメントはそもそも必要か、との意見が学校側からあった。就労サービスを利用希望だが、作業内容がマッチしているための選択であり、B型だから選択しているわけではない。一般、就労継続支援A型利用の見込みの薄い方もいる。その中での就労移行支援の利用も考えづらい。</p> <p>学校の職場実習と就労アセスメントの日程が重複できないため、平日に就労アセスメントを行うと欠席扱いになるのでは、との話題があったが、進路支援の中での必要事項なので出席扱いになる学校や欠席になるので長期休暇中に行う学校があり、対応が統一されていない様子。</p> <p>今年度就労アセスメント対象者の対応事業所について、1名ずつ別事業所にて行う予定にする仮の調整がなされた。</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

平成 30 年度 第 2 回進路連絡会議 報告書	
日 時	平成 31 年 2 月 26 日(木) 13:30 ~ 15:30
場 所	千歳市総合福祉センター 402 号室
参 加 者	千歳市内事業所(18 名) 養護学校・高等養護学校(12 名) 事務局(4 名) 参加者合計 34 名
要 旨	<ol style="list-style-type: none"> 1.平成 29 年度卒業生の進路動向について 2.就労アセスメントについて 3.在校生の進路希望動向について 4.情報交換会
会議内容	<p>1.平成 30 年度 卒業生の進路動向について</p> <p>各学校(7 校)から平成 30 年度卒業生の進路動向について報告があった。 卒業生 32 名中 13 名は福祉事業所の利用を予定している。(うち市内事業所 8 名) 2 名が在学中に就労アセスメントを行い 2 名とも春から就労継続支援 B 型利用につながる予定。</p> <p>2.就労アセスメントについて</p> <p>障がい者支援課から、経過と現状の報告を頂く。 来年度の就労アセスメント希望者について、市にもすでに話が来ている方がいて把握している。 具体的な時期や人数については次年度に入ってから各学校の進路指導によって随時確定してゆく。長期休みでの実施が学業にも影響が出づらく都合が良いことから、就労アセスメント実施は夏休み頃から増加する見通しである。</p> <p>3.在校生の進路希望動向について</p> <p>各学校(7 校)から在校生の進路希望の報告があった。 高校 2 年生 27 名、1 年生 26 名(報告のあった生徒の数のみ記載)の進路希望先は福祉就労希望者が多いが一般就労希望者も 3 割程度いる。 次年度の就労アセスメント対象者はまだ数が確定しないが、就労継続支援 B 型希望者は数名いるため今年度と同数程度又は若干多くなると予想される。次回の進路連絡会議で改めて詳細について学校から報告を頂く。</p> <p>4.情報交換会</p> <p>(1)参加者より、現状で感じている課題や疑問を出してもらい話し合いを行った。 計画相談支援について、千歳市では他地域よりもセルフプランでの支給決定ケー</p>

	<p>スが多い事について質問がある。</p> <p>計画作成対象者に対して相談支援事業所、相談支援専門員が不足している現状を説明する。千歳市としても全ての対象者に計画相談支援が入るのが理想ではあり、対応拡大の取組していることの説明があった。</p> <p>千歳市に限らず相談支援専門員の人数は不足傾向であるとの情報もあった。</p> <p>重症心身障害者はサービスの有無に関わらずケアをしなければならないと思うが、医療と福祉で連携がしづらいのが課題だと話が出た。</p> <p>(2) 卒業生の進路希望とサービス調整の兼ね合いから、次年度の第2回進路連絡会議の時期を11月に設定し情報を共有してゆくことが提案され了承を頂いている。</p>
<p>作成者</p>	<p>千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀</p>

1. 相談支援業務

【委託相談支援】

委託相談事業所として今年度も多くの相談を頂き、情報提供・関係機関との調整等を行い、サービスを必要とする皆様のケアマネジメントに係ってきた。相談の実人数は若干の減となったが、転出や介護保険への移行等が理由で、相談の延べ数は昨年より2割増で3,300件となっている。

個々の相談内容が多様性に広がって行く中で、関係機関との連携や障がい福祉事業所以外(医療、教育、企業等)の機関との連携も必要となるケースに対しても、適切な対応を効率的に行う事できている。今年度の相談内容の特徴として、40歳前後の方の相談、特にご家族から頂く機会が多くなっている。8050問題は千歳市でも同様に課題となっていて、家族関係や、将来、経済的な問題に加え、障がいの有無や日々の関わり方についての相談も多く、複雑な課題となっている。

また、生きにくさやコミュニケーションの課題については、地域で生活を続けている方々でも抱えている不安で、発達・精神の障がいに関する相談も増えている。

生活・医療・介護・就労など、それぞれに専門の相談・支援先が確立されてきている事で、専門事業所に繋ぎ、適正な対応を頂く機会が多くなったこともあり、特に就労に関する相談は減少している。

<相談件数の比較>

年度	相談総数	月平均
平成28年度	4,595件	383件
平成29年度	2,817件	235件
平成30年度	3,353件	279件

2. 自立支援協議会

事務局の任を担い、活動の中心となる各部会では構成メンバーとして地域課題の抽出や、主催事業に関わり事務局業務にもあたっている。

【相談支援部会】

障がい児者・高齢の相談支援員と医療機関の相談員を構成メンバーとして開催している。課題共有シートを用いて、普段の相談業務の中で課題と感じていることを共有している。精神疾患の方や保証人がいない方のアパートが年々借りづらくなっている件、関連して入所施設の利用が厳しい現状でGHの利用希望が増えている件、新規事業所の情報共有、介護保険サービスとの連携。引きこもりの当事者とご家族の支援について等が課題としてあげられている。

事業所ガイドブックの活用について、より多くの方に利用頂ける形について検討を継続している。

・障がい福祉勉強会

新規採用職員、他業種間の基本的な研修の場を確保することを目的に、千歳市内で福祉職として経験年数の浅い支援者を主な対象とした「障がい福祉勉強会」を継続開催している。企画・運営は相談支援部会構成員の他、市内の事業所から若手職員を加えた5名で行なっている。年4回開催で各回テーマを設け、行政・市内の事業所職員に講師や実践報告を依頼し実施している。講義・実践報告終了後、グループごとで感想や意見交換の時間を設け、各関係機関の交流の場にもなっている。

【こども部会】

2ヶ月に1回、偶数月に開催している。児童の事業所・児童に関する行政機関・学校を構成メンバーに、地域課題の集約、検討の場として開催している。その他、市内在住の障がいを持つこどもを対象に、長期休暇のイベントとしてレッツスマイル、保護者対象の情報交換会、支援者対象の勉強会の企画運営等を行なっている。

・レッツスマイル

夏企画では、江別アースドリームで動物とのふれあいや施設内にある屋内アスレチックで遊び、過ごしている。冬企画では、午前はボウリングと千歳市さけますの森さけます情報館見学の2コースに分かれ、午後からは千歳市総合福祉センター内でボランティアの方によるマジックショーを楽しむ時間を設定している。当日は近隣の高校・専門学校・大学にボランティアを依頼し、参加者と過ごして頂くと共に、将来の福祉を担う人材確保の切っ掛けの場として位置付けている。

・情報交換会

発達が気になるこどもの保護者を対象に、テーマを設定し各グループで、日頃の悩みなどを共有する場として企画している。参加希望者が少なく、当日は部会構成メンバーと参加者4名の11名1グループで情報交換を行なっている。参加者からは、役立つ機会になり今後も参加したいとの意向もあるが、4～5名の少人数の方が話しやすいとの声も挙がっている。

・支援者勉強会

学校での様子や、指導内容を見てみたいとの意見があり、構成メンバーでもある南幌養護学校と千歳高等支援学校の学校見学会を行っている。当日は午前のみ、午後のみ参加の方もいたが、合計24名で見学を行なっている。

・事業所相談会

今年度は、はたらく部会で開催している合同説明会と合同で、児童が利用可能な事業所の個別相談会を開催している。時期の問題もあってか参加者は多くはなかったが、支援を必要とする皆さんに個別相談の機会を作る事ができたことは成果。今後も開催を希望する声を頂いている。

【はたらく部会】(就労推進室やませみが事務局を担う)

2カ月に1回の頻度で市内就労系事業所が集まり地域課題等の情報共有の場となっている。7月には視察研修に参加し、札幌みなみの杜高等支援学校では職業指導に特化した支援教育の特性について、北海道リハビリでは規模の大きい就労継続事業所の取り組みについて見学し、就労支援について学ぶ機会となった。12月には障がい者就労支援事業所を中心に合同説明会を開催し、当事者・家族に限らず、福祉関係者、学校、行政機関など幅広い参加があった。部会内では『報酬改定について』、『利用者が就労を休まず継続していけるように取組む提案』などを勉強し事業所内や地域での課題を共有しながら、事業所間の連携を強め地域で課題解決を目指す取り組みを継続している。

【地域生活部会】

活動も二年目に入り、前年度とメンバーを変えずに活動をしている。初年度に話し合われた、地域の課題を知り地域に貢献する形として今後の活動を明確にしていくことを検討しているが、震災などの影響もあり活動の機会は多くは取れず、同様の課題について今後も検討を続けていくこととしている。

震災のよって新たに見えた課題についても地域の課題として解決の検討を行って行く。

【進路連絡会議】

今年度も夏と冬の2回の実施。昨年に続き、卒後すぐに就労継続B型事業の利用を希望される方の

進路について他、在校生・卒業生が適性に希望している進路先に繋がるように意見交換、調整を図った。就労系事業所、行政機関、学校と相談支援事業所が連携を図りながら卒業後の進路先の定着支援、卒業予定者の地域生活の円滑なサービス調整、在校生の課題共有を行った。

卒業後に支援の調整が必要となり改めてサービス等利用計画の作成依頼を受けるケースも少なくない実情を踏まえ、卒業前に支援の必要性について広く検討して行く事が必要との声を受け、開催時期の検討や会議の内容について意見を伺い、来年度は2回目の開催時期を早める協議をしている。

【差別解消・虐待防止専門部会】

本専門部会は「千歳市障害者差別解消支援地域協議会」を兼ねて運営している。

事例の検証等を中心に取り組んでいる。高齢者支援機関と合同で会議を行なっている。

3. 当事者活動サポート

【自立生活プログラム】

地域で生活する当事者の自立に向けて、外出、調理、金銭管理、暮らし等をテーマに例年継続して実施してきた同プログラムであるが、本年度も開催の調整が困難となり未実施となっている。

当事者のニーズに応じて、来年度は再開する為の準備を継続して行なっている。

【千歳星の会】

月に1回、年12回の開催。例年通りに参加メンバーで話し合った企画をもとに実施。週末に休日がない方、他の団体の活動に参加されている方等、地域の社会資源が増えていく中で、活動を活発にする為に新規メンバー確保に重点を置き活動を行った。市内事業所にも協力して頂き、周知方法を検討、楽しめる活動を中心に展開し平均5名程度の参加者から、18~20名の参加者で活動することが可能となっている。次年度に向けて日々の生活で感じる不安や課題の解決、自立生活プログラム再開の意見交換を含めた活動を目標に継続した取り組みを検討している。

4. 相談事業の質的強化、ネットワーク充実

スタッフおよび市内の相談支援の資質向上、関係機関とのネットワーク充実に向けて、研修会・会議の参加、開催協力を行った。

【個別支援計画作成研修】

近郊で施設入所支援を有する4法人が実施している「個別支援計画作成研修」の事務局を担い、企画、調整、運営等について協力を行っている。また、相談支援専門員として研修にも参加し、サービス等利用計画と個別支援計画、それぞれの意味と必要性について発信していく機会になる様に努めている。

【ネットワーク会議】(2か月に1度の開催)

圏域相談 夢民の主催で石狩圏域の相談支援事業所が定期的に相談支援の現状、地域課題等について情報共有を行っている。

報酬改定に伴う、加算等の請求について各市町村の進捗情報の共有なども行っている。

【千歳市高齢者・障がい者虐待防止ネットワーク会議】

行政、高齢者支援機関、障がい支援機関、警察、社協、保健所等で構成。

今年度第1回開催は2月21日。平成29年度高齢・障がい、それぞれの状況確認、平成30年度中間報告が行われた。講演として「北海道における障がい者虐待の動向」を聞く。

【千歳市生活困窮者自立支援連絡調整会議】

生活困窮者支援法の施行により設立。行政関係各担当者、相談支援事業所、社協、ハローワーク等で構成。10月24日に開催され、平成29年度相談実績、生活保護の状況が報告された。住宅セーフティネット制度について説明があり、住宅確保に苦勞する障がい当事者に向けて新たな可能性の一つになる情報となった。

生活困窮支援とは、「生活保護受給の必要一步出前で踏みとどまれる支援の事」と再度確認。障がい当事者の具体的な事例の対応について説明頂く事のできる機会となっている。

【千歳市教育支援委員会・千歳市特別支援教育専門家チーム委員会】

専門医、学識経験者、教育関係者、福祉関係者が、心身に障がいのある児童、生徒及び就学予定者の適正な教育支援を行う事を目的に、適正な就学指導の為の諸調査・検査を行い教育委員会に答申することを目的としている。今年度も会議等で市内の児童生徒の進路について各校コーディネーター等の調査・検査を元に進路の方向性について判断、答申している。

各学校から情報を頂く機会となり、その後の相談の切っ掛けとなる機会、相談業務の理解を頂き活用頂くケースも多くなり、参加の目的の一つとして成果が見られ始めている。

【計画相談支援（委託外）】

これまでの計画相談に係る皆さんの継続支援と、委託相談で頂いた相談からサービス利用に繋がるケースの計画作成を行なっている。

委託相談同様に必要とするサービスも多岐にわたり、地域生活や自立に向けてのお手伝いを進めて行く中で限られたサービスの調整に苦慮する機会は少なくないのが現状である。

又、セルフプランから更新時の計画への変更も進められていく中、相談支援事業所・専門員の役割もより重要となっている。

作成件数年度比較	計画作成/モニタリング	児童計画作成/モニタリング
平成30年度	107件/172件	14件/9件
平成29年度	128件/233件	11件/17件
平成28年度	118件/376件	14件/37件

計画の作成については、利用終了、転出等で新規との差異を含めても現状となっている。

新規職員との引継ぎの関係で、モニタリングの実施件数を年度当初に大きく減としてしまったが現状は通常の実施状況に戻し対応を行なっている。

事業所名: 千歳市障がい者総合支援センター

1 相談件数(本人・家族別)

	本人	家族	その他	合計(+ +)
件数	1752	602	999	3353

2 相談件数(性別)

	男性	女性	性別不詳	合計(+ +)
件数	2011	1259	83	3353

3 相談件数(年齢別)

	18歳未満	18～39歳	40～64歳	65歳以上	年齢不詳	小計(+ + +)	合計(+ + + +)
件数	484	1874	819	60	116	2869	3353

4 相談件数(新規・継続別)

	新規	継続	計(+)
件数	16	3337	3353

5 相談件数(相談形態別)

	訪問	来所	同行	電話	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計(+ + + + + +)
件数	541	440	72	2212	8	17	28	35	3353

6 相談件数(障害別)

	身体	知的	精神	児童(身体)	児童(知的)	その他	合計(+ + + + +)
件数	607	1102	1166	20	253	205	3353

7 相談内容

(1) 生活全般に関する相談

項目	件数	項目	件数	項目	件数	項目	件数
ケアのこと	1,783	健康・医療	804	年金・所得	251	情報提供	830
住環境	731	就労	605	社会参加・余暇	541	対人関係	537
コミュニケーション	366	補装具・日生	2	地域連携	310	精神疾患	285
苦情	0	権利擁護	47	家族関係	1,163		0
教育	301	移動	36	手帳	34	その他	326

(2) 施設等サービス利用に関する相談

項目	件数	項目	件数	項目	件数
入所	97	施設案内・概要	27		0
通所	1,214	グループホーム	344		0
デイサービス	162	施設の入所体験	3		0
ホームヘルパー	503	ショートステイ	87		0
入浴サービス	63	苦情(サービス事業所)	0	その他	86

(3) 制度利用に関する相談

項目	件数	項目	件数	項目	件数
行政・制度関係	1,254	生活保護等	47		0
申請手続き等	194	苦情(制度利用)	0		0
関連機関の紹介	1		0		0
年金関連	48		0		0
成年後見制度	7		0	その他	99

特記事項

事業所名: 千歳市障がい者総合支援センター

8 相談支援を利用している障害者等の人数

		実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
人数	障害者	281	61	6	119	51	38	4	2
	障害児	47	4	0	15	0	11	0	17
	合計	328	65	6	134	51	49	4	19

9 支援方法(再掲)

	訪問	来所	同行	電話	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計(+ + + + +)
件数	541	440	72	2212	8	17	28	35	3353

10 支援内容

	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や病状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援
件数	3,896	2,068	804	310	301	2,066	346	1,873	605
ピアカウンセラー(再掲)									

	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	その他	合計 (+ + + + +) (+ +)
件数	577	54	511	1341
ピアカウンセラー(再掲)				0

平成 30 年度 千歳地域生活支援センター相談支援強化事業報告

千歳地域生活支援センター
センター長 奥貫 あい子

千歳地域生活支援センター（以下、当センター）は、指定特定相談支援事業所・指定一般相談支援事業所として、「千歳市障がい者相談支援機能強化事業(*1)」を受託し、「地域活動支援センター 型」として運営している。また、他に北海道から「精神障がい者地域生活支援事業」を受託し、精神障がい者の地域移行・地域定着の推進に向けた取組も行っている。

(*1)目的：千歳市における相談支援事業が適性かつ円滑に実施されるよう、一般的な相談支援事業に加え、特に必要と認められる能力を有する専門的職員を配置し、地域における相談支援事業所等に対する専門的な指導・助言、情報収集・提供、人材育成の支援、地域移行に向けた取組等を実施することにより、相談支援機能の強化を図ることを目的とする。

相談支援

(1) 相談者の状況（千歳市内のみ）

相談件数は延べ5,386件。相談者は「本人」が64%（3,455件）、「家族以外（関係者等）」33%（1,752件）、「家族」3%（179件）となっている。障がい別件数では、「精神障がい」が68%、「発達障がい」が10%、「身体障がい」「知的障がい」（手帳所持者）についても、ほとんどが精神科を受診している方（重複障がい）であった。年齢別では、「40～64歳」が最も多く65%、「18～39歳」が29%、「65歳以上」が4%であった。

相談形態は「電話」が一番多く47%（2,520件）、次いで「来所」の10%（533件）、「訪問」7%（363件）となっている。相談件数は前年度から微増したが、各割合など全体としての傾向は大きく変わらない。

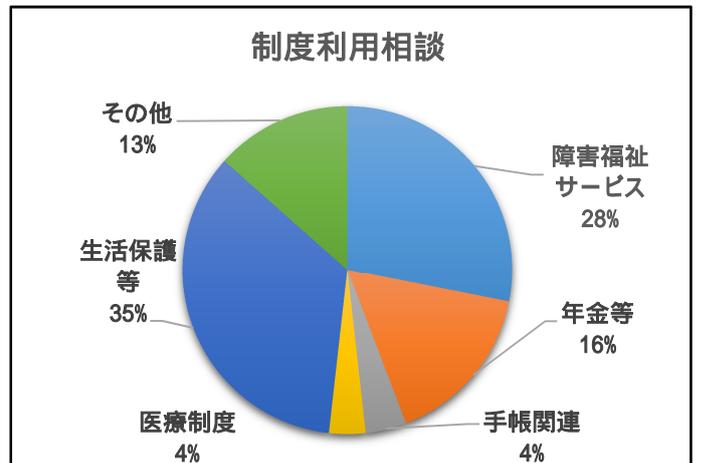
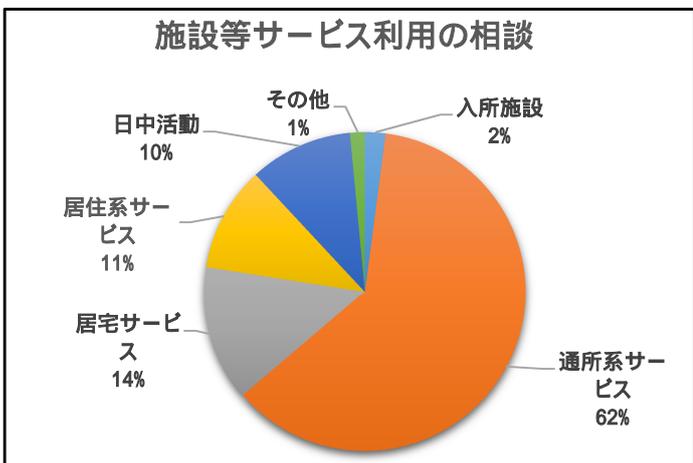
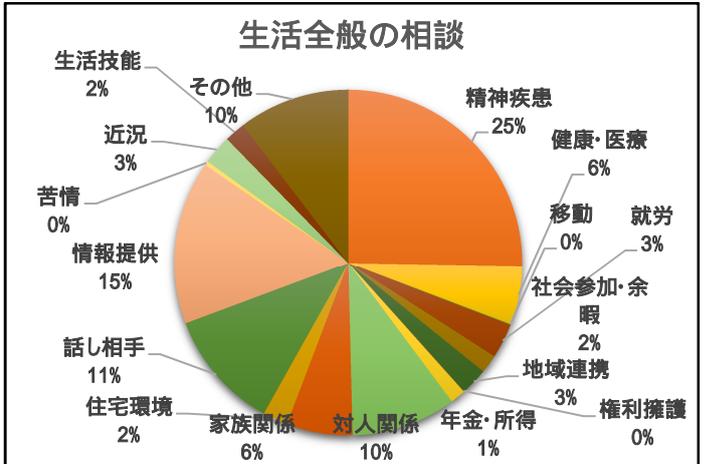
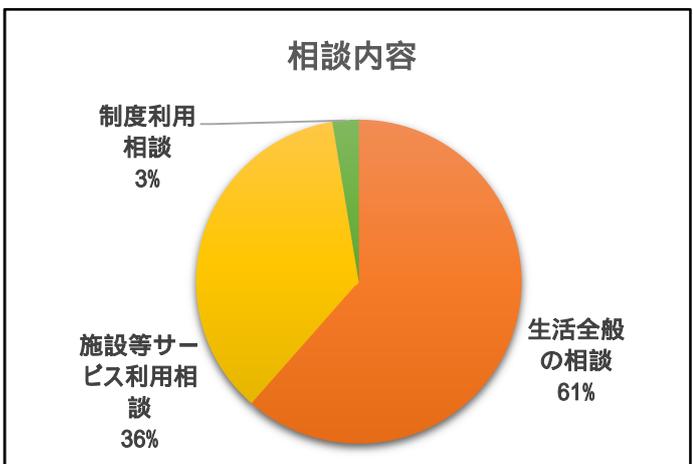
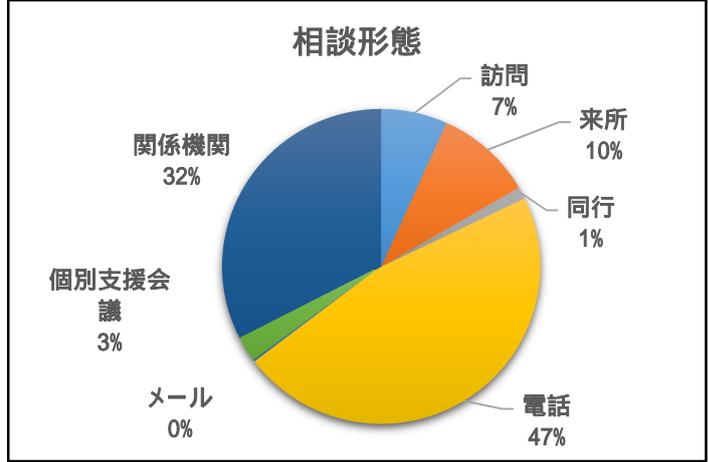
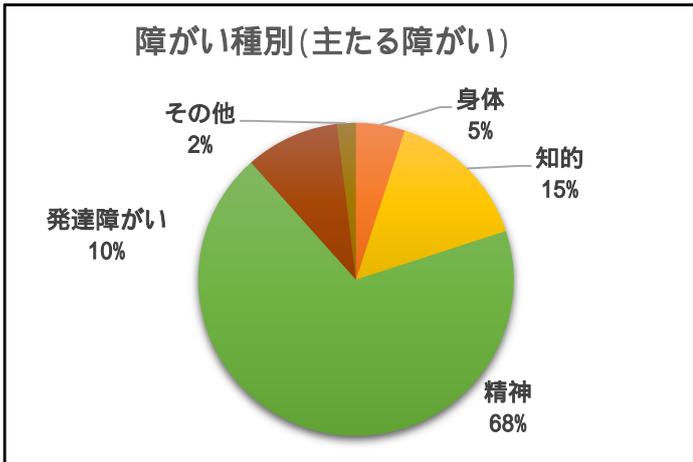
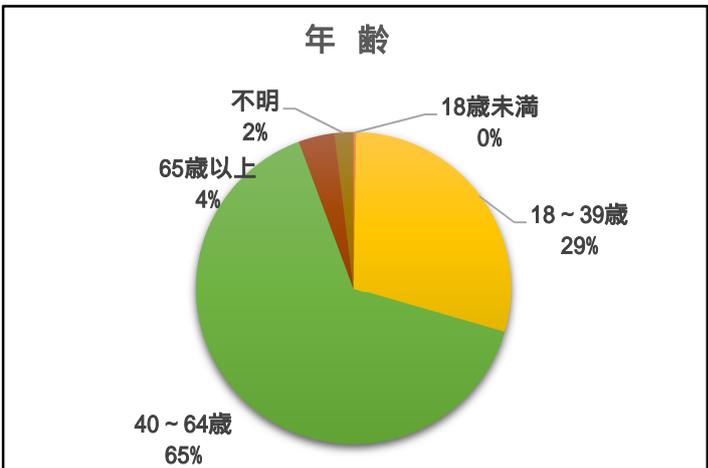
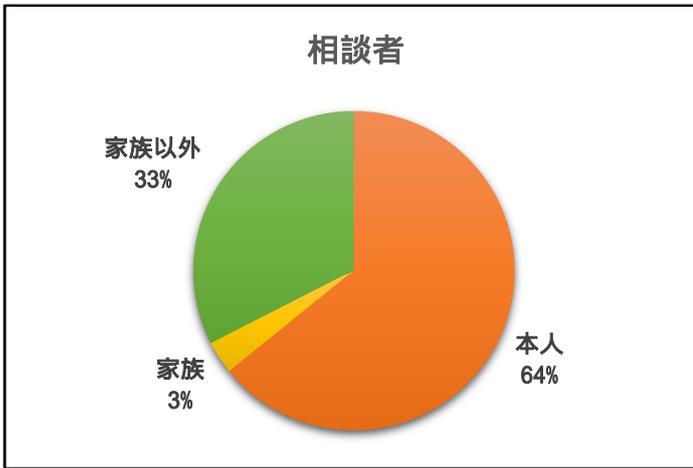
(2) 相談内容

相談内容は生活全般の相談が一番多いが、施設等サービス利用の相談も36%となっている。施設等サービス利用の相談については、「通所系サービス」の利用に当たっての調整などが数年来多くを占めており、施設等サービス利用の相談の62%を占めている。就労支援事業所が増加して選択肢が増えたこともあり、開始前の見学同行等の他、通所が安定するまでに複数回の調整やケア会議等の開催を必要とすることが増えている。

生活全般の相談では「精神疾患に関わる相談」（症状、治療、病院のことなど）が25%、「対人関係」10%、「家族関係」6%、「健康・医療」6%、「話し相手」（心理情緒面の受けとめ等、比較的軽微な相談）11%となっている。「話し相手」は、精神的に不安定な場合等に同じ方から同日に複数回の電話が来ることも稀にあるが、概ねある程度の枠組みの中で短時間傾聴する等で安心されている。

制度利用相談では、「障がい福祉サービス」が28%の他、「生活保護」が35%、「年金等」が16%、「その他」は介護保険や日常生活自立支援事業に関する相談などとなっている。

また最近の傾向として、10代～20代の若年層のひきこもり傾向にある方の相談が増えてきた印象があり、相談を継続しながら障がい福祉サービス等に繋げるタイミングを計っている。その他、介護保険分野と連携して支援することも増えてきている。



平成 30 年度千歳市障がい者就労支援事業報告

1 企業開拓

企業訪問・来室・電話 18 件
企業からの施設外就労の斡旋 1 件

2 就労支援 実績

- (1)新規相談登録者数 15 件（うち支援学校 1 件）
(2)新規就労者数 15 名（うち年度内離職者数 2 名）
・就労相談の傾向としては精神 8 名、知的 5 名、身体 2 名。
・高等支援学校就労者 1 名の定着支援を行った。
・就労はしていたが、福祉と繋がっていない卒業支援を終了した方の支援を行っている。

(3)職種

調理補助	清掃業	雑務仕分け	事務職
飲食業	倉庫内作業	保安系	

3 定着支援（面談・職場訪問）の成果

平成 30 年 3 月末	4 年以上	一般就労継続者	12 名
	1 年以上 4 年未満	〃	15 名
	1 年未満	〃	15 名

4 定着支援職場巡回及び定着面談（20 社）

(株)ダスキンサーヴ北海道	(株)ラルズ
(株)アレフ	コープ宅配システム トドック千歳センター
コープさっぽろ パセオ住吉	函館税関 千歳支所
日本食品分析センター	大東建託
(株)ホクリョウ千歳工場	(株)日清医療食品
(株)ゲオ千歳駅前店	(株)もりもと
千歳桂病院	イオン(株)千歳店 デリカ
デイサービス ふくろうの森	シダックス大新東 ヒューマンサービス北海道支店
田中製餡	(株)北泉
トヨタカローラ札幌(株)新車受渡センター	(株)トーチク

平成 31 年 3 月 31 日
社会福祉法人 千歳いずみ学園
就労推進室 やませみ

令和元年度 千歳市の障がい福祉施策等について

1 令和元年度 障害福祉関係予算の概要

障害福祉費予算額 2,532,878 千円 (前年比 3.5%増)

<主な内訳>

事業名	予算額 (千円)	前年度比 (%)
(1)自立支援給付事業	2,123,755	+ 5.0%
介護給付費等(訪問・就労支援・入所等)	1,953,819	+ 4.7%
自立支援医療費(更生・育成医療)	132,478	+ 12.4%
補装具費	26,580	6.6%
療養介護費ほか	10,878	0.9%
(2)地域生活支援事業	113,909	2.7%
点字図書室等運營業務委託料	9,702	+ 1.9%
意思疎通支援事業委託料	8,688	増減なし
相談支援機能強化事業委託料	6,218	+ 0.9%
訪問入浴サービス事業委託料	6,588	+ 18.9%
成年後見センター運營業務委託料	2,931	皆増
地域活動支援センター運営費補助金(基礎・強化)	18,000	増減なし
自動車運転免許取得・改造費助成	718	+ 17.9%
日常生活用具給付費	21,729	+ 19.7%
移動支援事業費	21,323	13.8%
日中一時支援事業費	17,030	30.1%
その他(パンフレット作成費、福祉ホーム運営補助金等)	982	10.2%
(3)障がい支援区分認定等事業(認定審査、相談支援給付費)	19,208	+ 4.4%
(4)特別障害者手当等支給事業費	32,709	+ 2.7%
(5)障がい者総合支援センター運営事業費	19,081	+ 3.7%
(6)日常生活支援サービス事業費	3,249	7.1%
移送介助サービス事業委託料	1,249	増減なし
障がい者除雪サービス事業委託料	298	26.4%
障がい者訪問給食サービス事業委託料	942	12.9%
障がい者紙おむつ給付費	760	0.3%
(7)福祉サービス利用券助成事業	43,615	5.8%
(8)精神障害者社会復帰施設等交通費通所交通費助成事業	693	4.5%

2 令和元年度における新規事業等

埋込型人工喉頭用人工鼻

平成 31 年度から、日常生活用具給付事業の給付対象品目に「埋込型人工喉頭用人工鼻」を追加。

埋込型人工喉頭用人工鼻とは？

喉頭摘出後、首元に造設した永久気管孔からの吸気を加湿・ろ過することで、痰の産出や気管の炎症を防ぐもの

成年後見支援センター

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者その他の判断能力の不十分な者及びその親族等の財産や権利を守るため、成年後見制度についての相談に応じ、制度利用を支援する機関として、新たに千歳市社会福祉協議会内に「(仮称)千歳市成年後見センター」を設置する。

視覚障がい者用誘導ソフトマット

千歳市総合福祉センター 4 階に視覚障がい者用誘導ソフトマットを敷設する。

視覚障がい者用誘導ソフトマットとは？

視覚障がい者の方のみならず、車椅子や幼児、高齢者、ベビーカーやハイヒールなどにも障害にならない設計になっています。

「平成31年度(令和元年度)千歳市障害者就労施設等からの物品等の調達方針」について

1 取組状況

平成25年4月1日に「国等による障害者就労施設等からの物品等の調達の推進等に関する法律(障害者優先調達推進法)」が施行され、同法への対応として、同年11月に「千歳市障害者就労施設等からの物品等の調達方針」を定めるとともに、「障害者就労施設等における提供可能な物品等一覧表」を作成し、全庁的に障害者就労施設等への発注に努めるよう推進してきたところである。

これまでの調達目標額及び調達実績は次表のとおりとなっている。

年 度	調達目標額	調達実績額	(参考) 調達件数
平成25年度	1,000,000円	858,376円	28件
平成26年度	1,000,000円	877,955円	14件
平成27年度	1,000,000円	4,920,234円	23件
平成28年度	1,000,000円	609,787円	13件
平成29年度	1,000,000円	601,314円	19件
平成30年度	1,000,000円	1,189,514円	13件

2 平成31年度(令和元年度)の調達方針

平成30年度における調達実績は1,189,514円となり、調達目標額を達成した。

調達額の達成は平成27年度以来となる。目標額達成の要因は、胆振東部地震発災時に避難所で使用した「毛布」のクリーニング発注(681,436円)があったことによるもので、当該クリーニングの発注先として就労支援事業所が選択されたことについては、これまでの優先調達に係る発注促進を図ってきた効果であると評価できる。

当該クリーニングについては、震災に伴う単発的な発注であり、継続した発注が見込まれるものではないが、今後も引き続き、優先調達に係る周知の徹底を図り、新たな発注の確保に努めることとし、平成31年度の調達方針においては、調達目標額を引き続き1,000,000円とし、別紙のとおり定めることとする。

3 調達方針の公表及び目標額達成に向けた取組

調達方針は市ホームページに掲載するほか、庁内ポータルに掲示板に掲載し庁内周知を図ることとする。また、平成30年度からは調達方針及び特定随意契約登録済みの障害者就労施設等の情報を年間複数回、イントラ掲示板上に掲載し、庁内周知の徹底を図っているところであり、引き続き庁内周知に努めるとともに、クリーニング・草刈の実施を予定する部署に対しては、個別に情報提供を行い、障害者就労施設等との積極的な調整を行うなど発注促進に向けた取組を行うこととする。

平成 31 年度千歳市障害者就労施設等からの物品等の調達方針

平成 31 年 3 月 20 日

市 長 決 定

1 目的

(1) 基本的な考え方

障がいのある方が就労によって経済的に自立し、安定した生活を送るためには、障がい者雇用を推進するための仕組みを整えるとともに、障がいのある方が就労する施設等が供給する物品及び役務(以下「物品等」という。)に対する需要の増進を図り、当該施設等の仕事の受注を確保し、経済的な基盤を確立することが重要である。

このため、千歳市においては、「国等による障害者就労施設等からの物品等の調達の推進等に関する法律(平成 24 年法律第 50 号。以下「障害者優先調達推進法」という。)」第 9 条の規定に基づき、障がいのある方が就労する施設等からの物品等の調達の一層の推進を図ることを目的として本方針を定める。

(2) 千歳市の責務

平成 25 年 4 月に障害者優先調達推進法が施行され、国、独立行政法人及び地方公共団体等は、優先的に障害者就労施設等から物品等を調達するよう努めるとともに、障害者就労施設等からの物品等の調達の推進を図るための方針を策定することとされており、千歳市として、法に基づく取組を行うものである。

2 平成 31 年度の調達方針

(1) 適用範囲

この方針は、千歳市の全ての組織を適用範囲とする。

(2) 調達する物品等

障害者就労施設等から調達する物品等については、次のとおりとする。

ただし、次に記載のないものであっても、障害者就労施設等が受注可能な物品等であれば対象とする。

物品

食品、農作物、印刷物、記念品・小物雑貨等

役務

クリーニング、清掃作業、廃棄作業、除雪作業、PC業務、軽作業等

(3) 調達の対象となる障害者就労施設等

この方針において調達の対象となる障害者就労施設等は、次のとおりとする。

「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(平成17年法律第123号)」に基づく事業所・施設等

ア 就労移行支援事業所

イ 就労継続支援事業所(A型、B型)

ウ 生活介護事業所

エ 障害者支援施設(就労移行支援、就労継続支援、生活介護を行うものに限る)

オ 地域活動支援センター

カ 小規模作業所

障がい者を多数雇用している企業等

ア 「障害者の雇用の促進等に関する法律(昭和35年法律第123号)」に基づく特例子会社

イ 重度障がい者多数雇用事業所()

() 重度障がい者多数雇用事業所の要件

・ 障がい者の雇用者数が5人以上

・ 障がい者の割合が従業員の20%以上

・ 雇用障がい者に占める重度身体障がい者、知的障がい者及び精神障がい者の割合が30%以上

在宅就業障がい者等

ア 在宅就業障がい者(自宅等において物品の製造、役務の提供等の業務を自ら行う障がい者)

イ 在宅就業支援団体(在宅就業障がい者に対する援助の業務等を行う団体)

(4) 調達の目標

平成31年度の障害者就労施設等からの物品等の調達目標の総額は、次の金額とする。

< 調達目標額 > 1,000,000 円

(5) 調達推進方法

障害者就労施設等から提供可能な物品等について情報を収集し、各部署に情報提供を行う。
各部署はその情報をもとに可能な限り障害者就労施設等への発注に努める。

(6) 調達方針及び調達実績の公表

調達方針を策定したときは、市ホームページ等により公表する。

調達実績は年度終了後に概要を取りまとめ、市ホームページ等により公表する。

(7) 物品等の調達に当たっての留意事項

この方針による物品等の調達に当たっては、次の点に留意するものとする。

予算の適正な執行に配慮しつつ、地方自治法施行令(昭和22年政令第16号)第167条の2第1項第3号に基づく随意契約制度を活用する。

高齢者等の雇用の安定等に関する法律(昭和46年法律第68号)に基づいて設置されたシルバー人材センターや地元中小企業等に配慮する。

障がい者の自立を促進する観点から、あらかじめ発注者の承諾を得た場合を除き、受注者は業務の全部又は一部を第三者に委託し、又は請け負わせてはならないものとする。

(8) 担当窓口

この方針に関する担当窓口は、保健福祉部障がい者支援課とする。

平成30年度千歳市障害程度区分認定審査会審査結果

1 審査会開催状況

回数	年月日	出席委員数	認定件数	新規認定(再掲)
第1回	H30.4.25	4	23	7
第2回	H30.5.22	5	16	5
第3回	H30.6.26	5	18	5
第4回	H30.7.24	5	19	2
第5回	H30.8.21	4	19	3
第6回	H30.9.11	5	23	1
第7回	H30.9.27	5	19	1
第8回	H30.10.23	5	21	6
第9回	H30.11.20	4	17	3
第10回	H30.12.18	5	25	3
第11回	H31.1.22	5	13	5
第12回	H31.2.21	4	20	1
第13回	H31.3.12	5	17	1
第14回	H31.3.26	5	16	2
合計		66	266	45

2 障害種類別件数

内 訳	件 数	割合(%)
身体	53	19.9%
知的	137	51.5%
精神	51	19.2%
身体+知的	20	7.5%
知的+精神	2	0.8%
精神+身体	3	1.1%
身体+知的+精神	0	0.0%
難病	0	0.0%
合計	266	100.0%

3 障害支援区分別件数

区 分	件 数	割合(%)
非該当	0	0.0%
区分 1	0	0.0%
区分 2	51	19.2%
区分 3	61	22.9%
区分 4	40	15.0%
区分 5	50	18.8%
区分 6	64	24.1%
合計	266	100.0%

4 有効期間別件数

期 間	件 数	割合(%)
12 か月	1	0.4%
24 か月	201	75.6%
36 か月	64	24.1%
その他	0	0.0%
合計	266	100.0%

令和元年度千歳市障がい者地域自立支援協議会運営方針

1 自立支援協議会の法的根拠

(障害者総合支援法抜粋)

第89条の3

地方公共団体は、単独で又は共同して、障害者等への支援の体制の整備を図るため、関係機関、関係団体並びに障害者等及びその家族並びに障害者等の福祉、医療、教育又は雇用に関連する職務に従事する者その他の関係者(次項において「関係機関等」という。)により構成される協議会を置くように努めなければならない。

2 前項の協議会は、関係機関等が相互の連絡を図ることにより、地域における障害者等への支援体制に関する課題について情報を共有し、関係機関等の連携の緊密化を図るとともに、地域の実情に応じた体制の整備について協議を行うものとする。

2 所掌事務(千歳市障がい者地域自立支援協議会設置要綱第2条)

(1) 協議会は、次に掲げる事項について協議し、その結果を市長へ報告する。

障害者等の福祉に関する情報等の共有に関すること

地域課題、困難事例等への対応及び支援に関すること

地域の関係機関等相互の連携及び地域社会との良好な関係構築に関すること

地域の社会資源の改善及び開発に関すること

障害者等のケアマネジメントに関すること

相談支援事業者の中立・公平性の確保及び評価に関すること

障害者等の権利擁護に関すること

千歳市障がい者計画及び千歳市障がい福祉計画並びに千歳市障がい児福祉計画に関すること

その他障害者等の地域生活支援に関すること

(2) 協議会は、協議会で合意された事項について、市長、関係機関等へ提言することができる。

3 協議会委員

協議会委員は、「千歳市障がい者地域自立支援協議会委員名簿」のとおり

(現委員の任期は令和2年10月28日まで)

4 協議会の構成

千歳市障がい者地域自立支援協議会設置要綱に基づき、定例会議のほか、事務局会議、専門部会、地域部会、協力組織により構成する。

また、委員のほか、協力組織や市内の関係機関、関係事業所、関係団体等を構成組織とする地域生活支援全体会議（全体会議）を必要に応じて開催する。

協議会の構成は、別紙「イメージ図」のとおり

5 定例の協議会の開催

- (1) 定例会議の開催は、年間 4 回程度を基本とする。
- (2) 障がい福祉施策に関する情報共有を図り、事務局会議や各部会等からの報告を受けて、制度の実施状況、計画の進捗状況などの把握とチェック、施策提言などをまとめるほか行政施策に関する協議に対して意見をまとめる。
- (3) 重要事項について方針等を決定する。

6 事務局会議の設置

- (1) 事務局会議は、会長が指名する委員並びに会長、副会長、事務局長及び事務局次長で構成する。
- (2) 事務局会議は必要に応じて委員以外の者に出席を求め、意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。
- (3) 事務局会議は協議会の運営全般を協議する場として、寄せられる諸課題を整理し、定例会議の議題を整理する。

7 専門部会の設置

- (1) 専門部会は、協議会の所掌事項のうち優先すべき重要事項について、定例会議の求めに応じて、必要な情報及び資料の収集、調査及び研究等を行う。
- (2) 専門部会の設置は、定例会議で決定する。
- (3) 専門部会の構成員は、部会長が委員及び委員以外の者から指名することとし、テーマに関係する事業者等、委員以外のメンバーを柔軟に招集できるものとする。
- (4) 部会長は、協議・調査・研究等の経過及び成果を定例会議で報告する。
- (5) 行政に対する制度改正・創設などを求める内容については、定例会議の決定を経て提言書としてまとめ、市長または関係機関等へ提出することができる。
- (6) 提起された課題が解決した場合は、部会を廃止する。

【設置部会】

差別解消・虐待防止専門部会

8 地域部会の設置

- (1) 地域部会は、テーマに係る機関の情報共有及び連携強化を図り、自主的な活動ができる場とする。
- (2) 地域部会の設置は、定例会議で決定する。
- (3) 部会長は、テーマに係る事業者や団体、当事者等を柔軟に招集できるものとする。
- (4) 部会長は、活動内容を定例会議に報告する。また、部会において解決できない共通認識のある課題については、協議会に報告することができるものとする。
- (5) 地域部会間においても自由に情報提供・意見交換等ができるものとする。

【設置部会】

相談支援部会

こども部会

はたらく部会

地域生活部会

9 協力組織について

- (1) 自主的に所掌事項に関する情報及び資料収集、調査及び研究等を行うため、事業種別又は支援目的別に関係機関等が参加する任意の組織を協力組織と位置付ける。
- (2) 協力組織は、立ち上げにあたり協議会・定例会議の決定を特に要さない。ただし、協議会への参画にあたっては、協議会定例会議の了解を得ることとする。
- (3) 協力組織は、構成メンバーの日常の運営・活動に関する相互の情報提供などを通じて、課題の共有化と課題抽出などを自主的に行うこととする。
- (4) 協議会並びに事務局は、必要に応じて協力組織運営の支援を行う。
- (5) 協力組織の代表は、必要に応じて協議会の了解の下、定例会議に出席し、意見を述べるができるものとする。

【設置組織】

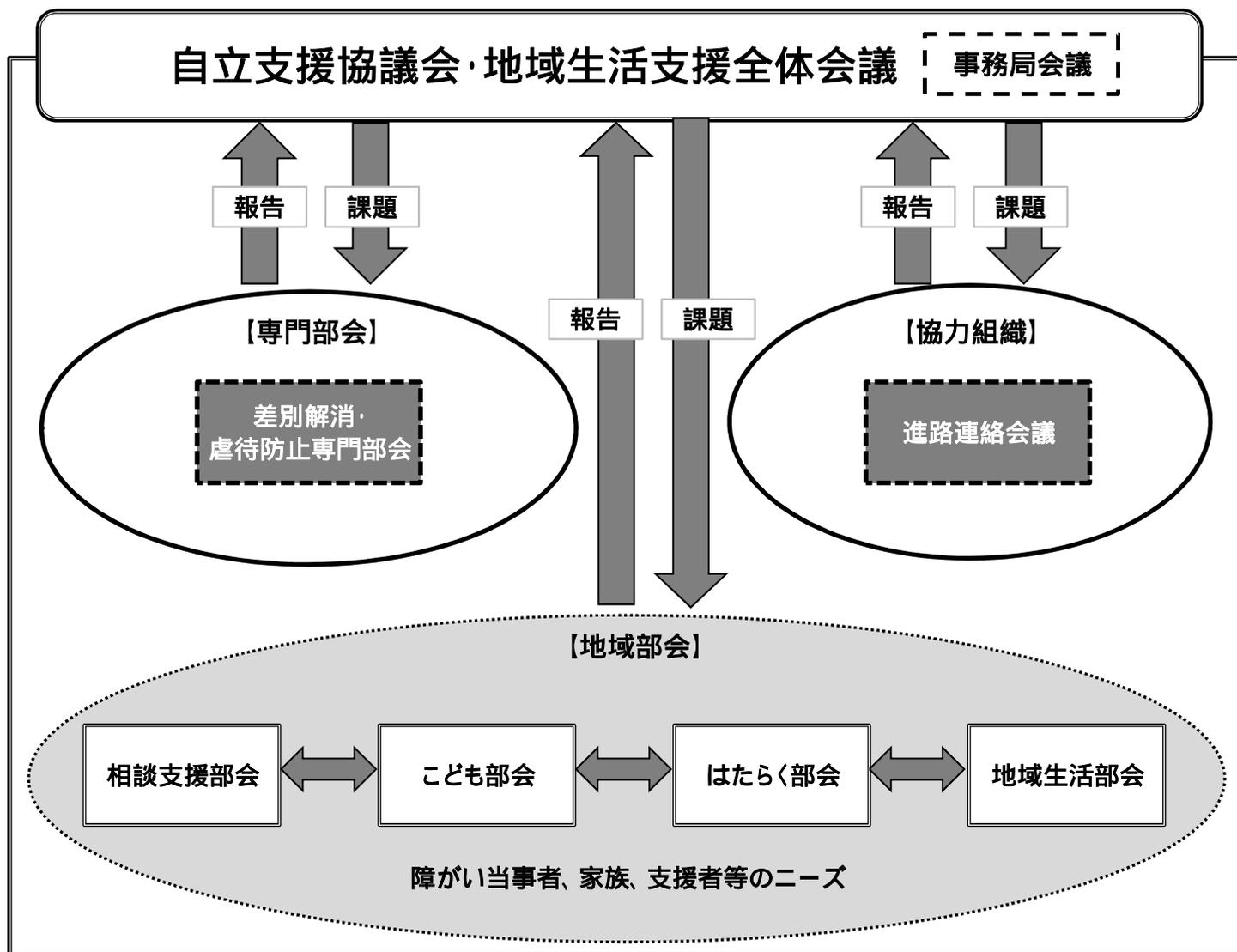
進路連絡会議

10 地域生活支援全体会議（全体会議）の開催

協議会は、地域での所掌事項に関する情報の共有及び協力・連携のため、必要に応じて定例会議に兼ねて全体会議を開催する。

なお、年度当初の協議会は全体会議を兼ねることとする。

令和元年度千歳市障がい者地域自立支援協議会・イメージ図



【自立支援協議会】

- ・障がい福祉施策に関する情報共有化を図り、事務局会議や各部会等からの報告を受けて、制度の実施状況、計画の進捗状況などのチェック、施策提言などをまとめるほか、行政施策に関する協議に対して意見をまとめる。
- ・重要事項について方針等を決定する。
- ・行政に対する制度改正・創設などを求める内容については、定例会議の決定を経て市長または関係機関等へ提言することができるものとする。

【事務局会議】

- ・協議会の運営全般を協議する場として、寄せられる諸問題を整理し、定例会議の議題を整理する。

【専門部会】

- ・協議会の所掌事項のうち優先すべき重要事項について、定例会議の求めに応じて、必要な情報及び資料の収集、調査、研究等を行う。
- ・短期的・集中的に課題の協議を行い、協議の経過や結果を定例会議に報告する。

【地域部会】

- ・関係する機関における情報共有、ネットワークの構築を図り、自主的な活動ができる場とする。
- ・構成員はテーマに関係する事業者や団体、当事者等を柔軟に招集することができる。
- ・地域部会間においても情報提供・意見交換等ができるものとする。
- ・部会内において解決できない共通認識のある課題については、協議会に報告することができるものとする。

【協力組織】

- ・協力組織は所掌事項に関する情報及び資料収集、調査、研究等を行うため、事業種別又は支援目的別に関係機関等が参加する任意の組織であり、協議会は協力組織との連携に努めることとする。

平成18年5月23日
市長 決 裁

千歳市障がい者地域自立支援協議会設置要綱

(設置)

第1条 市内に居住する障害者、障害児等（以下「障害者等」という）への支援の体制の整備を図るため、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号）第89条の3第1項の規定に基づき、福祉、保健、医療、雇用及び教育に関する関係機関、関係団体、関係事業者等による連携及び支援体制に関する協議を行い、障害者等の福祉施策及び地域生活支援を総合的かつ効果的に推進することを目的に千歳市障がい者地域自立支援協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について協議し、その結果を市長へ報告する。

- (1) 障害者等の福祉に関する情報等の共有に関すること。
- (2) 地域課題、困難事例等への対応及び支援に関すること。
- (3) 地域の関係機関等相互の連携及び地域社会との良好な関係構築に関すること。
- (4) 地域の社会資源の改善及び開発に関すること。
- (5) 障害者等のケアマネジメントに関すること。
- (6) 相談支援事業者の中立・公平性の確保及び評価に関すること。
- (7) 障害者等の権利擁護に関すること。
- (8) 千歳市障がい者計画及び千歳市障がい福祉計画並びに千歳市障がい児福祉計画に関すること。
- (9) その他障害者等の地域生活支援に関すること。

2 協議会は、協議会で合意された事項について、市長、関係機関等へ提言することができる。

(委員)

第3条 協議会は、委員26人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が依頼する。

- (1) 市内に居住する障害者等及びその家族等
- (2) 福祉、保健、医療、雇用、教育等に知識及び経験を有する者
- (3) 市内に居住し、又は通勤若しくは通所する者であって、次に掲げる関係機関等の代表者又は関係機関等から推薦を受けたもの
 - ア 障害者等の家族団体、支援団体等
 - イ 福祉、保健、医療、雇用、教育等に関係する機関、団体等
 - ウ 障害福祉サービス事業所等
 - エ 相談支援事業所等
 - オ 地域生活支援事業所等

(4) 市長が別に定めるところにより公募で選考した者

(5) その他市長が必要と認める者

3 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員に対する報酬は、支給しない。

(会長及び副会長)

第4条 協議会に会長及び副会長を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長が欠けたとき、又は会長に事故あるときは、その職務を代理する。

4 会長は、協議会を定例的又は必要に応じ臨時に招集し、会議の議長となる。

5 会長は、会長の招集する会議に必要な応じ委員以外の出席を求め、その意見若しくは説明を聞き、又は資料の提出を求めることができる。

(事務局会議)

第5条 協議会に、所掌事項の取扱い及び運営に関する調整を行うため、事務局会議を置く。

2 事務局会議は、委員のうちから会長が指名する運営委員並びに事務局長及び事務局次長で構成する。

3 事務局会議に座長を置き、事務局長を充てる。

4 座長は、事務局会議を必要に応じて招集し、会議の議長となる。

5 事務局会議は、必要に応じて委員以外の者に出席を求め、意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(専門部会)

第6条 協議会は、協議会の所掌事項のうち重要事項について、協議会の求めに応じて、必要な情報及び資料の収集、調査、研究等を行うため、専門部会を置くことができる。

2 専門部会に部会長及び副部会長を置く。

3 部会長は、委員のうちから会長が指名する。

4 副部会長は、部会長が指名し、部会長に事故あるときは、その職務を代理する。

5 専門部会の構成員は、協議会の同意を得て、委員及び委員以外の者を部会長が指名する。

6 部会長は、専門部会を必要に応じて招集し、会議の議長となる。

7 部会長は、調査研究等の経過及び成果を協議会へ報告しなければならない。

(地域部会)

第7条 協議会は、分野ごとに地域の関係機関等相互の連携及び障害者等の福祉に関する情報等の共有を図るため、地域部会を置くことができる。

2 地域部会に部会長を置く。

3 部会長は、分野に関係する事業者や団体等を招集することができる。

4 部会長は、地域部会の活動内容を協議会へ報告しなければならない。

(協力組織)

第8条 協議会は、自主的に所掌事項に関する情報及び資料収集、調査、研究等を行うため、事業種別又は支援目的別に関係機関等が参加する任意の組織を協力組織とすることができる。

2 協議会は、協力組織との連携に努めなければならない。

3 協議会は、協力組織代表者に出席を求め、調査研究等の成果について報告若しくは意見を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(全体会)

第9条 協議会は、地域で所掌事項に関する情報の共有化及び協力関係を構築するため、定例の協議会に兼ねて、地域生活支援全体会議(以下「全体会」という。)を開催することができる。

2 全体会には、委員のほか、市内の第3条第2項第3号に掲げる関係機関等のうちすべての機関等の招集に努めるものとする。

(事務局)

第10条 事務局は、千歳市保健福祉部障がい者支援課に置き、協議会の庶務を行う。

2 千歳市障がい者総合支援センターは、協議会の運営等に関し、事務局を補佐する。

3 事務局に事務局長及び事務局次長を置き、事務局長は障がい者支援課長をもって充て、事務局次長は障がい者支援課自立支援係長及び障がい者総合支援センター長をもって充てる。

(補則)

第11条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成18年5月23日から施行する。

附 則(平成22年7月1日)

この要綱は、平成22年7月1日から施行する。

附 則(平成24年4月1日)

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成25年4月1日)

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

附 則(平成25年5月29日)

この要綱は、平成25年5月29日から施行する。

附 則(平成30年4月1日)

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。